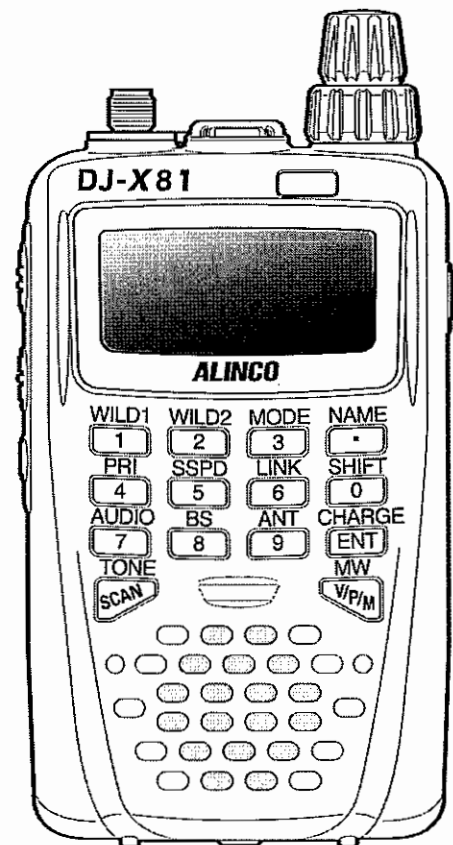
ALINCO

WIDEBAND COMMUNICATIONS RECEIVER

DJ-X81

取扱説明書

アルインコ　ワイドバンドレシーバーをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。
アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管しておいてください。

This product is for the use only in Japan. The manufacturer declines any responsibilities against the claim for the use abroad.

アルインコ株式会社

RoHS

付属品の確認

DJ-X81には次の付属品が同梱されています。ご使用の前にご確認ください。

- □ 取扱説明書（本書）
- □ 保証書
- □ 周波数データリスト
- □ ニッケル水素バッテリーパックEBP-179（1.2V-1900mA）×2
- □ ACアダプター EDC-139（6.0V-0.85A）
- □ ホイップアンテナEA-154（SMAコネクター）
- □ 充電スタンドEDC-197
- □ ベルトクリップセット（袋入り）
  - ・ベルトクリップEBC-28
  - ・ストラップ
  - ・付属ビス（ベルトクリップ用1本）

もくじ

1

1. 機能と特徴

DJ-X81は長波(LF)から極超短波(UHF)まで広範囲の電波メディアを受信する多機能レシーバーです。
DJ-X81には主に次のような特徴があります。

1 広範囲の受信周波数0.100 ～ 1299.995MHzに対応し、航空無線や業務通信などを受信できます。(一部周波数を除く)

2 ワンセグ（地上波デジタルテレビ放送）の音声を受信できます。

3 緊急地震速報専用受信機と同等の機能を搭載しました。

4 AMラジオや短波放送を受信するバーアンテナを内蔵しています。

5 イヤホンのコードをアンテナとして、FMラジオのような強い電波を受信できます。

6 イヤホンジャックにオプションのリモートコントローラーが接続できます。

7 盗聴器発見機能を2モード搭載。盗聴器が使われていそうな場合、表示と警告音で知らせてくれます。

8 本体同士で設定や各種データをコピーできるクローン機能を搭載。またパソコンと接続して設定やデータを編集することもできます。

9 業務通信で多用されているトーンスケルチやDCSデコード機能を搭載。目的の音声だけを選択して聞くことができます。

10 空線信号キャンセラー機能で鉄道無線やMCA業務無線で使用されている通話の無い時に聞こえる「ピー」や「ギャラギャラ」という音にスケルチをかけることができます。

11 強い信号を探すときは速く、弱い信号を探すときはゆっくり確実に、スキャンスピードを変更でき、5段階から選べます。

12 よく使うセットモードの機能にジャンプできるワイルドキーを2つ採用しました。

13 プリセットモードに国際VHF（マリン無線）バンドを採用しました。

2. 安全上のご注意

2-1 安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表 示	表示の意味
⚠ 危 険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警 告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
⚠	△記号は、注意(危険·警告含む)を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
⃠	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合はACアダプターをコンセントから抜いていただく強制内容)が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因にて通信等の機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

警告

2

■使用環境・条件

自動車等の運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に手に持って使ったり、表示を注視したりすると道路交通法違反で罰せられます。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

電子機器の使用が制限されている場所では、電源を入れないでください。
運行の安全に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内のみです。海外では広帯域受信機の持ち込みや使用を禁止・制限している国や地域があります。

この製品を人命救助等の目的で使用して、万一、故障・誤動作等が原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■レシーバー本体の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

このレシーバーは調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水をかけたり、水が入ったりぬれたイヤホンを繋いだりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所(風呂場など)では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■チャージャーの取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手でチャージャーのACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チャージャーのACアダプターを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACアダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

ACアダプターを外して、通電しない状態で卓上スタンド代わりに使用しないでください。電池からの電流がスタンドの充電回路に流れ故障の原因になります。

■ACアダプターの使用について

ぬれた手でACアダプターの電源プラグに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

ACアダプターの電源プラグをACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に埃や金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

ACアダプターを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは、絶対にしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

■シガーライターケーブルの使用について

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと火災・感電・故障の原因となります。

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対にお止めください。

- ■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- ■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
- ■ 内部に水や異物が入ったとき
- ■ ACアダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

■保守・点検

本体やアクセサリーは、分解しないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

⚠ 注意

2

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして故障やけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■レシーバー本体の取扱いについて

アンテナを誤って目にささないようにしてください。

外部スピーカー端子には指定のオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

■チャージャーの取扱いについて

チャージャーのACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。

チャージャーのACアダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン・シンナー・洗剤などの溶剤を使うと外装や文字が変質するなど、故障の原因になります。

■外部電源使用時の注意

車のシガーソケットから電源を取る場合には、オプションのシガーDC/DCコンバーター（EDH-33）をご使用ください。

シガーDCDCコンバーターの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

2-2 重要：電波法上のご注意

この製品を使用するのに特別な資格や免許は必要ありませんが、電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、１年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第109条の2で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）した時は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めています。

- 受信して知り得た情報を悪用すると罰せられます。
- 受信した内容を勝手に公開したり、第三者に提供すると罰せられます。
- 秘話がかけられた通信を、悪用するために解読すると罰せられます。

2-3 お願いとおことわり

- 本機は厳重な管理の下に生産及び出荷されますが、万一ご不審な点やお気付きの点がありましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。
- 本機は広帯域受信機のため本体の内部発振(スプリアス)によって、受信できない場合や雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- 付属の周波数データリストに記載された周波数はあくまでも参考のもので、付近の電波状況などの諸条件により受信できない場合があります。
  書店で販売されている周波数帳や受信ガイド、インターネット上にある情報などを参考に、必要に応じて修正してお使いください。
- 本書の説明用画面のイラストは、実際の画面とは字体や形状などが異なったり、一部の表示を省略したりする場合があります。本書の内容の一部又は全部を無断転載することは禁止されています。内容に関しては万全を期しておりますが、誤りがあった場合や技術変更などに伴い、記述を予告なく変更する場合があります。乱丁、落丁はお取り替えいたします。
- 防水､防塵ではありません。水分や粉塵が無線機内部に入って故障した場合、保証の対象にはなりません。汗や工場で出る鉄粉などは意識していなくてもちょっとした隙間から内部に入りがちですので特にご注意ください。

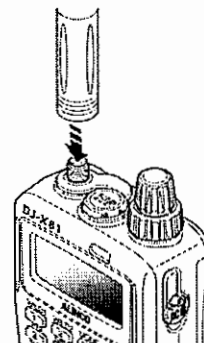
3. 付属品の使いかた

3

3-1 アンテナの取り付けかた／取り外しかた

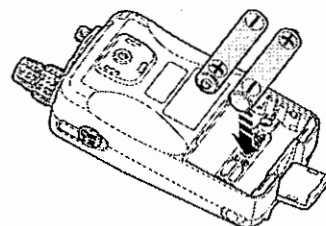
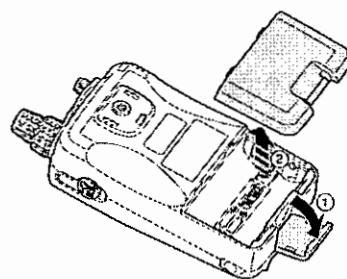
1 アンテナの根元を持ち時計方向(右)にゆっくりと回します。
回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。

2 外す時はアンテナを反時計方向(左)にゆっくりと回します。

参考

- アンテナコネクターはSMAタイプです。
- 本機のアンテナは折れにくくするため通常のものより柔軟な素材でできています。
- 外部アンテナの接続にも、このコネクターを使います。
- 市販されているアンテナ端子変換用コネクターやアンテナには、この製品に正しく接続できない形状の物があります。正しく接続することをご確認ください。

3-2 電池の入れかた・ご注意

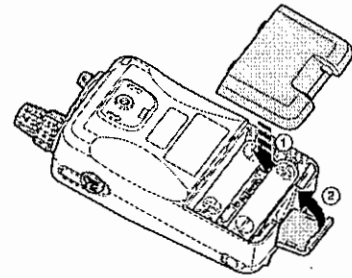
1 ロックを外してカバーを開けます。
外したカバーをなくさないよう注意してください。

2 ケース内の＋・－の表示にしたがって、付属バッテリー(EBP-179)2本を入れます。

注意

- ＋・－の向きを間違わないよう注意してください。本体の故障・発熱・液漏れの原因になります。

3 カバーを閉めてロックをかけます。

きちんと閉まったことを確認してください。

本機は付属のニッケル水素バッテリーの他に、単三型アルカリ乾電池でもご使用いただけます。

3

●電池残量について

電池の残量が少なくなるとディスプレイに ▭◢ が点灯し、さらに少なくなると ▭ に変わります。
付属のニッケル水素バッテリーをご使用のときは充電をしてください。
アルカリ乾電池をご使用のときは新しい電池と交換してください。

●ニッケル水素バッテリーを使用するときの注意点

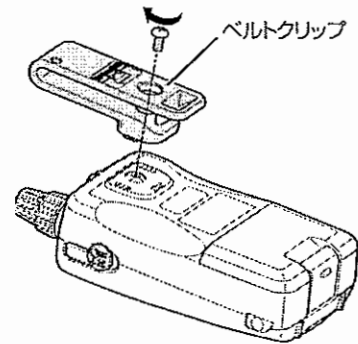
- 付属のニッケル水素バッテリーは、お買い上げ後に充電してからお使いください。
- 構造上、市販品のニッケル水素バッテリーは本機では充電できません。
- 充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。
- バッテリーの改造や分解、火中や水中への投入は危険ですから絶対にしないでください。
- バッテリーの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上に長時間の充電(過充電)は避けてください。液もれや、バッテリーの性能を低下させる恐れがあります。
- バッテリーの保存は、-10℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い場所では、バッテリーの液漏れや、サビの原因になりますので避けてください。
- 所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合はバッテリーの寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取り替えください。
- 使用済みのバッテリーは、環境保護のため、電池回収協力店へご持参ください。
- ニッケル水素バッテリーはその性質上、6ヶ月程度充電せず放置すると劣化して充電できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは満充電にして、バッテリーを本体から取り外して保存し、最低でも6ヶ月に一度は充電してください。
- ニッケル水素バッテリーは消耗品ですので製品保証の対象ではありません。
- ニッケル水素バッテリーやアルカリ乾電池を持ち運ぶときは、ビニール袋で包むなど端子がショートしないよう十分に気を付けてください。
- 電源スイッチを切っていても、待機電流により電池は消費されます。非常時の備蓄用等、やむを得ず電池を入れた状態で長期保管される場合は必ず十日に一度程度は通電して、電池が放電していないか確認してください。電気製品に電池を装着したままでの保存は電池の劣化、液漏れなどの原因になります。このような保存状態で起きる電池本体と電池に関連して起こった不具合は保証の対象外となります。

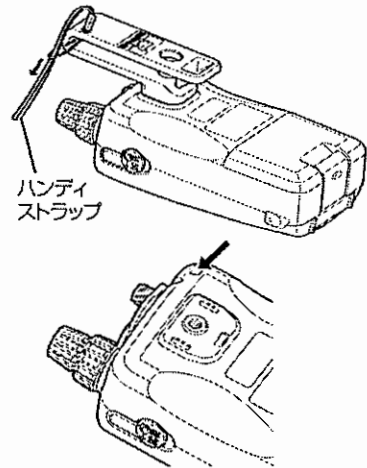
3

3-3 ベルトクリップの取り付けかた

1 ベルトクリップを本体後面の溝に合わせます。

2 ネジを時計方向(右)に回します。
付属品以外のネジを使うと本体が破損する可能性があります。絶対に規格以外のネジをお使いにならないでください。
回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。

3 外す時はネジを反時計方向(左)に回します。
ベルトクリップで体の横、または背中に固定して、イヤホンは引っかからないようになるべく背中を通して余分な長さを束ねてください。かがんだ時にプラグやアンテナに負荷がかからないようご注意ください。
※使用しているとネジが緩むことがあります。ときどき点検してください。

3-4 ストラップの取り付けかた

1 ストラップをベルトクリップの穴に図のように取り付けます。
取り付け場所は選べます。

3-5 ACアダプターの使いかた

1 本体右側のDCキャップを開けます。

2 付属ＡＣアダプターのプラグを本体ＤＣジャックに差し込みます。

3 ACアダプターを家庭用電源コンセントへ接続します。

注意

- 本体にACアダプターを接続しないときは、ほこりが内部に入るのを防ぐため、DCキャップを閉めてください。
- 付属ACアダプターを接続した状態で受信するとノイズを拾う可能性がありますが故障ではありません。

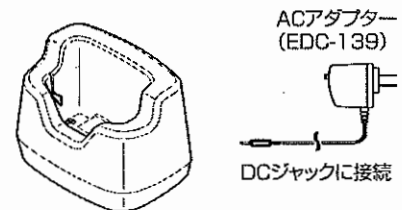
参考

- 本機は付属ACアダプターや別売のシガーライターケーブルEDH-33を使用し、本体を通して付属のニッケル水素バッテリーを充電できます。放電状態から約10時間で充電できます。
- オプションのアクセサリーに同梱されている注意書をよく読み、正しく安全にお使いください。
- お使いのコンセントの電圧が不安定だと、充電器は正しく動作しません。

3-6 充電スタンドの使いかた・ご注意

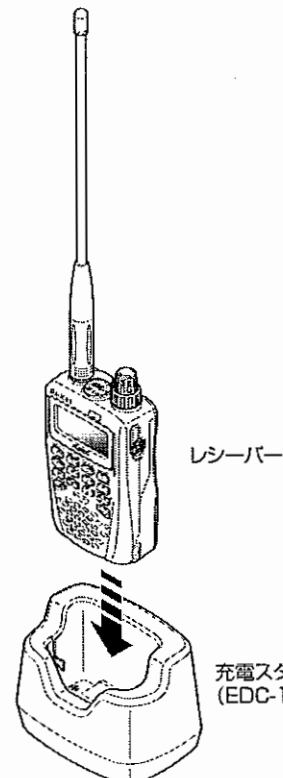
3-6-1 充電スタンドの接続

1 付属の充電スタンド後側のDCジャックにACアダプターのプラグを差し込みます。

2 ACアダプターを家庭用電源コンセントへ接続します。

3-6-2 充電の方法

1 本機に付属のニッケル水素バッテリーを入れます。

バッテリーの入れ方は「電池の入れ方・ご注意(☞P12)」をご参照ください。

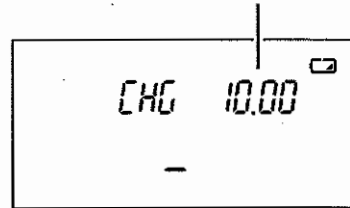
2 本機を充電スタンドにのせます。

参考

- 充電時や充電直後に、左下の銀色端子付近に高めの熱を感じますが、異常ではありません。

3

3 充電が開始されます。

- 電源OFFのときは左のような表示がでます。
- 電源ONのときはバッテリーアイコンが点滅します。

充電できないときは充電機能がOFFになっていないか確かめてください。
(「7-10 外部DC端子の充電機能設定(☞P46)」)

参考

- 過充電を防止するため、10時間たつと自動的に充電を終了します。
- 受信しながらでも充電ができます。
- 本機はACアダプターから充電スタンドなしでも充電できます。
- 充電中に赤色LEDを点灯させることもできます。(「7-10 外部DC端子の充電機能設定(☞P46)」) このとき信号を受信するとランプはオレンジ色に変わります。
- 電源OFFのとき電源供給が途切れると「NO DC」と表示されます。
- 電源供給が途切れたまま1分が経過する、または電源がONになると残り時間タイマーはリセットされます。
(緊急地震速報が作動して電源が自動でONになってもリセットされます。)

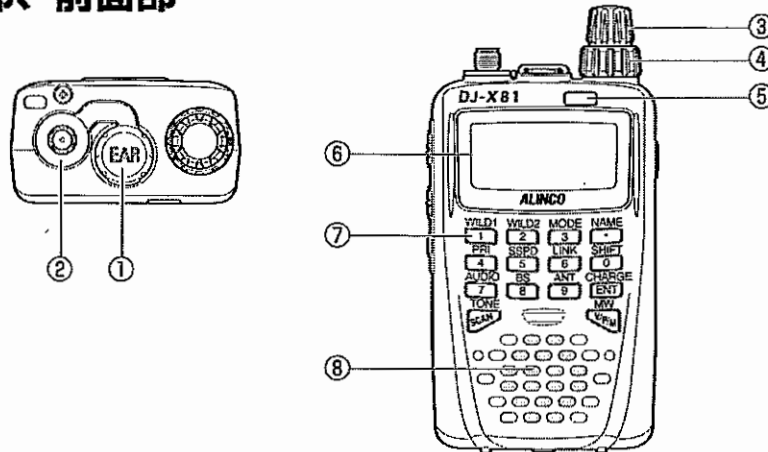
注意

必ずお読みください。

- +/−の向きを間違えないようにご注意ください。漏電・発火・爆発の原因となることがあります。
- セットする乾電池は、タイプ・メーカーが同じで、新しいものを使用してください。
- 電池を交換するときは、すべての電池を新しいものに換えてください。
- 弊社指定のニッケル水素バッテリー以外はお使いになれません。それ以外のバッテリーを使って生じた、身体・財産へのいかなる損害・傷害についても弊社は一切の責任を負いません。
- 乾電池と接する電極の汚れなどをときどき清潔な乾いた布や綿棒で掃除してください。
- 間違ったタイプの電池と交換すると、爆発の原因となることがあります。
- 単三型アルカリ乾電池装着時は絶対に充電しないでください。液漏れなどの原因になることがあります。
- ACアダプター(EDC-139)を使用しないときは、必ず電源コンセントから外しておいてください。
- 充電しながら受信すると、ノイズが混じることがありますが、異常ではありません。
- ニッケル水素バッテリーは継ぎ足し充電を繰り返すとバッテリーが劣化し満充電できなくなります。必ず ▭ が表示されてから充電してください。バッテリーの残量が気になるときはスペアのバッテリーをお持ちください。
- 電源スイッチを切っていても待機電流により電池は放電します。使わないときは電池を本体から外さないと、劣化します。
- 緊急地震速報機能を動作させたまま電源を切ると待機電流以上に電池を消耗します。
- 充電中は本機を揺らしたり、無駄な抜き差しを繰り返したりしないでください。充電電圧が正しく検出されず、充電器の充電状態を示すランプが適切に動作しなかったり、途中でも充電動作を終了することがあります。
- 本機は充電中向かって左側が熱くなりますが構造上のことで故障ではありません。

4. 各部の名称と操作

4-1 本体の名称と動作

4-1-1 上面部、前面部

No.	名称	機能
①	イヤホン端子	イヤホンやオプションのリモコンを接続します。
②	アンテナコネクター	付属のホイップアンテナや外部アンテナを取り付けます。コネクターはSMAタイプです。
③	ダイヤル	ダイヤルを回すと周波数が変わります。F 点灯中にダイヤルを押すとセットモードにはいります。
④	リング	リングを回すと音量の調整ができます。
⑤	ランプ	スケルチが開くと緑色に点灯します。白色LEDを簡易ライトとして点灯することができます。条件や設定に応じて緑、白、赤に光ります。
⑥	ディスプレイ	本機の状態を表示します。詳細はディスプレイの表示を参照してください。
⑦	テンキー	周波数のダイレクト入力や、各種設定に使用します。
⑧	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。

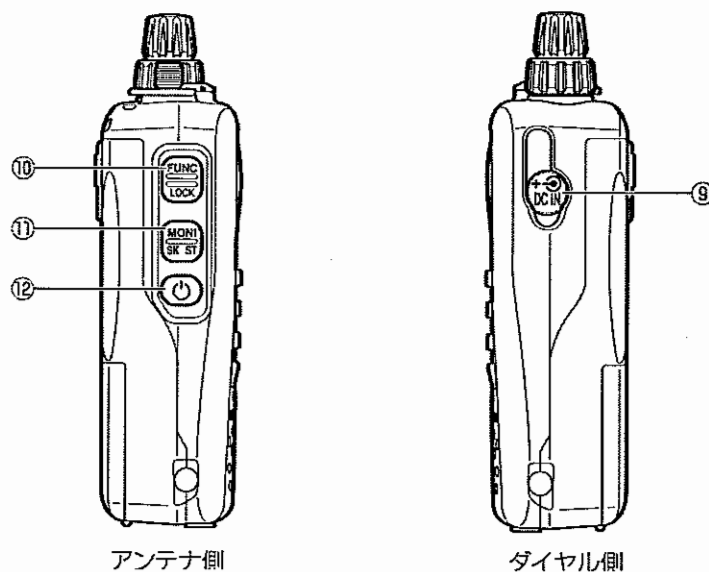
注意

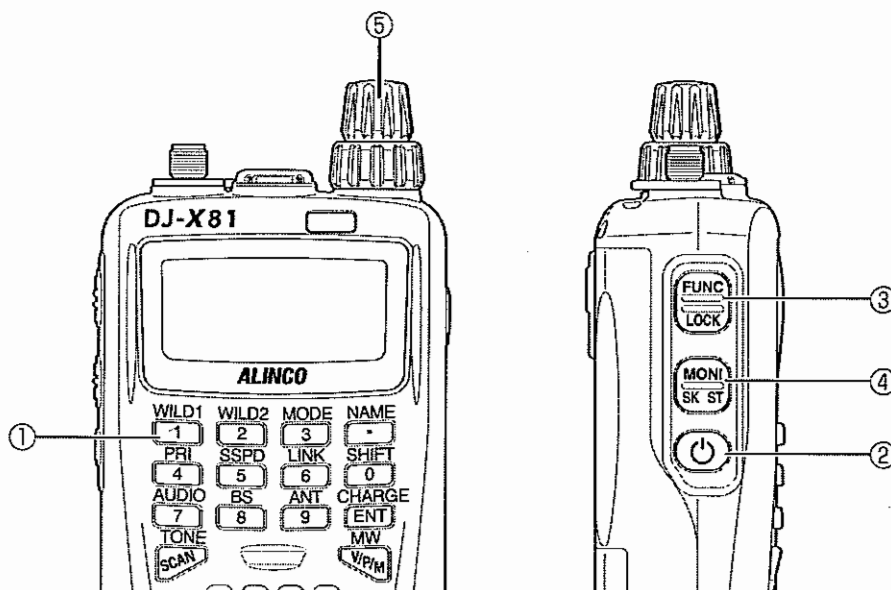
- 静電気が溜まりやすい場所や服装でイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じることがあります。ドアノブに触れて感じることがあるショックと同じで、漏電のような異常ではありません。
- イヤホン端子はデリケートな部品です。ねじったり曲げたり必要以上のストレスをかけないでください。
- イヤホンやACアダプターを使わないときはゴムキャップを閉めてください。異物が入りやすくなり、故障の原因になります。
- プラグは必ず最後までしっかり挿入してください。中途半端に挿入された状態では、プラグ・ジャック両方が故障の原因になります。

4

4-1-2 側面部

アンテナ側

ダイヤル側

No.	名称	機能
⑨	DCジャック	外部電源として、付属のACアダプターを接続できます。
⑩	FUNCキー	このキーと他のキーを組み合わせて様々な操作をします。長く押すとキーロックがかかります。
⑪	MONIキー	押すとスケルチが開きます。このキーを押したままダイヤルを回すとスケルチレベルの設定ができます。
⑫	(⏻)	電源のオン、オフをします。誤動作を避けるため、少し長めに押すようになっています。

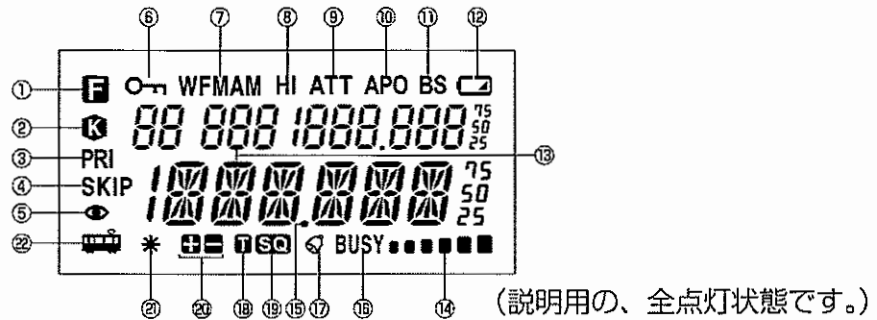
4-1-3 キー操作

No.	名称	機能	FUNCキーを押した後	キーを長く押す（約1秒）	キーを押しながらダイヤル操作
①	1	1 を入力	ワイルドキー 1		
	2	2 を入力	ワイルドキー 2		
	3	3 を入力	電波型式切り替え		
	4	4 を入力	プライオリティ機能		
	5	5 を入力	スキャンスピード設定		
	6	6 を入力	リンク設定		
	7	7 を入力	受信音質調整機能		
	8	8 を入力	バッテリーセーブ機能		
	9	9 を入力	アンテナ切り替え		
	.	小数点を入力	メモリーネーム		
	0	0 を入力	周波数シフト機能		
	ENT	入力の決定、バンド/バンクの切り替え	充電機能		バンド/バンクの切り替え
	V/P/M	運用モード切り替え	メモリーチャンネルの登録・消去		運用モードの切り替え
	SCAN	スキャンキー	トーンスケルチ／DCS ／空線信号キャンセラー設定		スキャンモードの選択
②	(⏻)	電源のON/OFF		電源のON/OFF	
③	FUNC	各種設定切り替え		キーロックのON/OFF	1MHz 単位のアップ・ダウン
④	MONI	モニター機能	チャンネルステップ/スキップ機能	盗聴器発見機能(＊)	スケルチ調整
⑤	ダイヤル/リング	周波数/音量/その他の設定	セットモード		

＊盗聴器発見機能はMONIキーとダイヤルを一緒に長く押すと動作します。
詳しくは「盗聴器発見機能(☞P58)」をお読みください。

参考

- ケースに印字されている文字は、FUNCキーを押した時に動作する機能の略語です。
- 多くの操作で、スキャン中はキー入力を受け付けません。操作できないときに表示の小数点が点滅していたら、TONE SCAN キーを押してスキャンをとめてください。

4-2 ディスプレイの表示

（説明用の、全点灯状態です。）

No.	名称	機能
①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	K	緊急地震速報機能が動作中に点灯します。
③	PRI	プライオリティ機能がONのときに点灯します。
④	SKIP	スキップ設定時に点灯します。
⑤		盗聴器発見機能ONのときに点灯します。
⑥		キーロック状態の時に点灯します。
⑦	WFMAM	電波型式（AM、FM、WFM）を表示します。
⑧	HI	音質がHIに設定されているときに点灯します。
⑨	ATT	アッテネーター動作時に点灯します。
⑩	APO	オートパワーオフ機能がONのときに点灯します。
⑪	BS	バッテリーセーブ機能がONのときに点灯します。
⑫		電池残量が少なくなると点灯します。
⑬	8	受信周波数や各設定内容などを表示します。
⑭	■■■■■■	受信信号の強さやTV受信のチューン状態を表示します。
⑮	•	スキャン時に点滅します。
⑯	BUSY	スケルチが開くと点灯します。
⑰		ベル機能有効時に点灯します。
⑱	T	トーンスケルチ選択受信時に表示されます。
⑲	SQ	トーンスケルチ選択受信時に表示されます。
⑳	+−	シフト方向を表示します。
㉑	*	DCS選択受信時に表示されます。
㉒		空線信号キャンセラー動作時に点灯します。

5. 基本操作

※本書中､｢キーを押す｣はキーを短くしっかり押してからすぐに指を放すこと、｢キーを長く押す、長押しする｣は、その機能が始まるまでキーを押し続けることを表します。間違って押すと思わぬ動作をすることがありますので、ご注意ください。

5

5-1 電源を入れる

1 **(⏻) キーを長く押すと電源が入ります。誤操作を防止するため、キーを長く押さないと電源が入りません。**

電源を切るときも同じ操作をします。

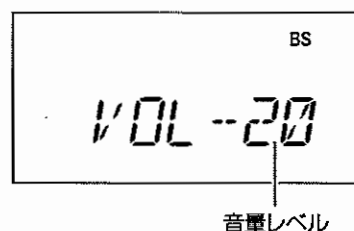
5-2 周波数を合わせる

ダイヤルを回すか、テンキーで直接入力することができます。

5-3 音量を調整する

音量調整範囲は0 ～ 30までの31段階です。
初期値は20です。

1 **リングを回して音量レベルを聞きやすいように調整します。**

音量レベルが表示されます。
ディスプレイに右のように表示されます。
音量は時計回りで増加、反時計回りで減少します。

注意

・イヤホンを使用するときは音量にご注意ください。小さいレベルで実際に音量を確かめながら大きくしてください。
・イヤホン類で音声や音楽を大きな音で聞き続けていると聴力障害の原因となることがあります、音量はこまめに調整してください。聴力に異常を感じたときは、すぐに使用を止めて医師にご相談になることをお勧めします。

参考

音が出ないときは
・スケルチが閉じているときや、ミュート機能が動作しているときは音量を大きくしても受信音は聞こえません。
詳細は、次の｢スケルチを調整する(☞P22)｣と｢モニター/ミュート機能(☞P23)｣をお読みください。

5-4 スケルチを調整する

●スケルチとは

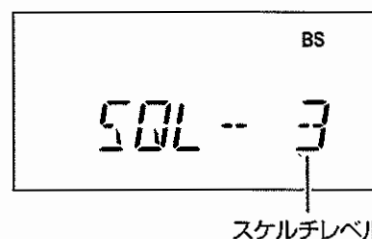
一定レベル以上の信号を受信したときだけ、スピーカーから音声を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを聞こえなくするもので信号の待ち受けがしやすくなります。
スケルチのレベルを上げると強い信号は受信できますが、弱い信号は受信できなくなります。
信号を受信して音を出すことを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。どの程度の強さの信号を受信したときにスケルチが開くかは、スケルチの設定レベルで決まります。このレベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するので調整できるようになっています。

スケルチレベルの調整範囲は0～9までの10段階です。
スケルチレベルの初期値は3です。

パソコンを使ったデータ通信のデコードなどでは、開放状態で使います。

5-4-1 操作方法

1 ダイヤルを1回押して、ダイヤルを回します。

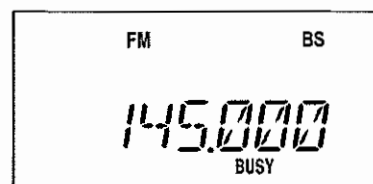
ディスプレイに右のように表示されます。

スケルチレベル

スケルチレベルは時計回りで高く、反時計回りで低くなります。

・スケルチを常に開いた状態にしたいときはスケルチレベルを0にします。
・スケルチが開いた状態ではスキャンが働きません。スキャンを動作させるときはノイズ音が聞こえなくなるまでスケルチレベルを調整してください。

5-5 モニター/ミュート機能

- モニターとはスケルチを一時的に開く機能です。受信信号が弱いときや音が途切れるときに、設定されているスケルチレベルに関わらず一時的にスケルチを開きます。トーンスケルチ他、選択受信機能も一時的に解除されます。
- ミュートとは消音機能です。信号を受信しても音を出しません。
モニターとミュートは「モニター/ミュート機能の設定(☞P69)」で選んで設定します。

モニター/ミュート機能にはPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことで動作します。
モニターのときはディスプレイに「BUSY」が点灯し、スケルチが開きます。
ミュートのときはディスプレイの「BUSY」が点滅し、音声を出さなくなります。

- モニターのPUSH設定では[MONI]キーを押している間だけスケルチが開きます。[MONI]キーをはなすと再び設定されたスケルチレベルに戻ります。
- モニターのHOLD設定では一度[MONI]キーを押すとスケルチが開いたままの状態を保ちます。再度[MONI]キーを押すとモニター機能は解除され、設定されたスケルチレベルに戻ります。
- PUSHとHOLDの切り替え方法はセットモードの「MONIキー動作の設定(☞P64)」をお読みください。

参考

- モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選べません。
- ワンセグ音声ではスケルチとモニターは動作しません。
- モニターを動作するとトーンスケルチやDCS・空線信号キャンセラーも一時的に解除されます。
- モニター/ミュート機能に連動して白色LEDを光らせることもできます。「モニター/ミュート機能の設定(☞P69)」

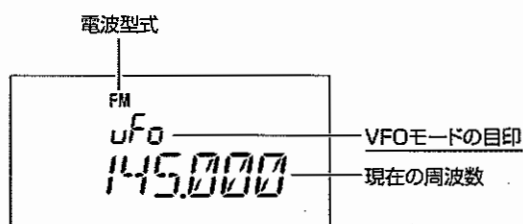
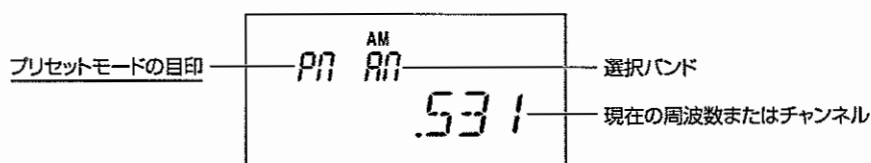
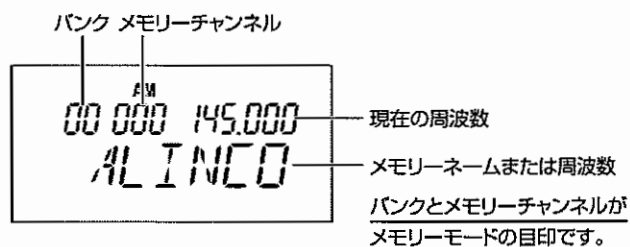
6. 運用モード

DJ-X81にはVFOモード、プリセットモード、メモリーモードの3つの運用モードがあります。

VFOモード	可変周波数発振器(Variable Frequency Oscillator)の略で、ダイヤルを回して周波数を選ぶモードです。
プリセットモード	AMラジオ、FMラジオ、ワンセグ音声(地上デジタルテレビ放送)、国際VHFマリン無線の周波数およびチャンネルがあらかじめセットされています。
メモリーモード	あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。メモリーの登録を行うときは「メモリーモードでの運用(☞P32)」をお読みください。

6

・運用モードの切り替え:図は、各モードの表示例を表します。
キーを押すごとにモードが切り替わります。

●VFOモード

●プリセットモード

●メモリーモード

(画面は一例です。)

6-1 VFOモードでの運用

工場出荷時から最初に電源を入れたときに表示されるモードです。ダイヤルやキーボード操作で受信周波数を選ぶことができます。

●バンドの切り替え

- ・CHARGE [ENT] キーを押すと次の14バンドから順に選択できます。
- ・CHARGE [ENT] キーを押しながらダイヤルを回すと、バンドは昇順でも降順でも自由に変えられます。

初期値	周波数範囲	
.100	(100～530kHz)	※1
.531	(531～1620kHz)	※2
2.000	(1.625～49.995MHz)	
51.000	(50.000～75.995MHz)	
76.000	(76.000～107.995MHz)	
118.000	(108.000～141.995MHz)	
145.000	(142.000～169.995MHz)	
175.750	(170.000～221.995MHz)	
270.000	(222.000～335.995MHz)	※3
382.100	(336.000～429.995MHz)	※3
433.000	(430.000～469.995MHz)	
475.750	(470.000～769.995MHz)	
806.000	(770.000～959.995MHz)	※3
1295.000	(960.000～1299.995MHz)	

6-1-1 チャンネルステップ周波数の設定

チャンネルステップとは総務省によって無線通信やラジオ、テレビ放送などに割り当てられた周波数と周波数の間隔を言います。
チャンネルステップは変更できます。
設定変更できるチャンネルステップの単位は次の通りです。
初期設定は「Auto」です。通常は「Auto」設定を変更する必要はありませんが、自動で合わない周波数を受信する際に設定してください。

●選択できるチャンネルステップ

Auto、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz

※1:チャンネルステップ1kHzのみで変更できません。
※2:チャンネルステップ9kHzのみで変更できません。
※3:一部表示されない周波数があります。詳細は定格(P90)を参照ください。

6

1 CHARGE [ENT] キーを押してチャンネルステップを変更したいバンドに合わせます。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 [MONI]キーを押すとディスプレイに「AUTO」が表示されます。

4 再度、[MONI]キーを押すと「AUTO」から数字表示に変わります。

5 ダイヤルを回すとチャンネルステップを選択できます。このとき再度[MONI]キーを押すと「AUTO」に戻せます。

6 [FUNC]キーを押すと設定が完了し、ディスプレイは周波数表示画面に戻ります。

いずれかのバンドでチャンネルステップに「AUTO」以外のステップを選択すると、全バンドで「AUTO」は解除されます。また最後に選択したバンドごとのステップが記憶されています。
いずれかのバンドで「AUTO」に戻すと、全てのバンドで「AUTO」になり、本機に登録されたチャンネルステップへ自動的に切り替わります。

6-1-2 1MHz アップ・ダウン操作

●周波数を大きく変更する

VFOモードで[FUNC]キーを押しながらダイヤルを回すと1MHz単位で増減します。

参考

- 1MHz アップ・ダウン操作時は、各バンドの範囲に関係なく増減します。
- [FUNC]キーを押したまま一度もダイヤルを回さずに、約1秒経過するとキーロックが動作します。同じ操作を繰り返すと解除できます。
- チャンネルステップの関係上、1MHｚ単位で増減から外れる場合があります。

6-1-3 周波数を直接入力するときの操作

キーボードを操作して、周波数を直接入力できます。

受信したい周波数を直接入力するとき

例1： 450.250MHzと入力するとき

[PRI 4] [SSPD 5] [SHIFT 0] [NAME ・] [WILD2 2] [SSPD 5] と入力して [CHARGE ENT] キー

例2： 0.702MHz(702kHz)と入力するとき

[NAME ・] [AUDIO 7] [SHIFT 0] [WILD2 2] と入力して [CHARGE ENT] キー

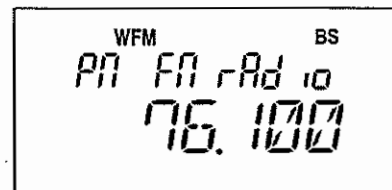
と入力します。

周波数を間違えて入力したときはダイヤルを回すと初めから入力をやり直すことができます。

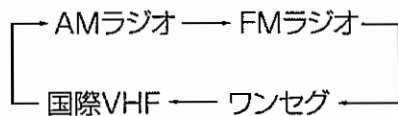
6-2 プリセットモードでの運用

1 VFOモードから [MW V/P/M] キーを1回押すと、プリセットモードになります。

PM は、全てのプリセット・バンド受信時に表示されます。

WFM BS
PM FM rAd io
76.100

2 [CHARGE ENT] キーで聞きたいバンドを選択します。

[CHARGE ENT] キーを押すごとに右のように切り替わります。ワンセグからの切り替えは、他より時間がかかります。

AMラジオ → FMラジオ → ワンセグ → 国際VHF → AMラジオ

3 ダイヤルを回して周波数またはチャンネルを選択します。

6-2-1 ワンセグ音声(地上デジタルテレビ放送)操作手順

初めて使う時や、受信場所が大きく変わったときは必ず下記の手順に従って受信場所の地域を選択してからお使いください。

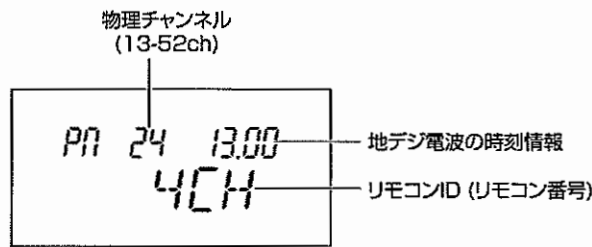
1 CHARGE ENT キーを押して、ワンセグモードを選びます。

2 TONE SCAN キーを長く押すと地域名がローマ字で表示される、選択画面になります。

3 ダイヤルを回すと下記の地域を選択することができます。

HOKAID	北海道	ISHIKW	石川	WAKAYM	和歌山
AOMORI	青森	FUKUI	福井	KAINAN	海南
IWATE	岩手	YAMANS	山梨	TOTTOR	鳥取
MIYAGI	宮城	UTSUKS	美ヶ原	YONAGO	米子
WAKUYA	涌谷	ZENKOJ	善光寺	SIMANE	島根
AKITA	秋田	IIDA	飯田	OKAYAM	岡山
OODATE	大館	MATUMT	松本	HIROSM	広島
YAMAGT	山形	GIFU	岐阜	YAMAGC	山口
TURUOK	鶴岡	SIZUOK	静岡	SIMONO	下関
FUKUSM	福島	HAMAMT	浜松	IWAKUN	岩国
AIZUWK	会津若松	FUJINM	富士宮	TOKUSM	徳島
IBARAK	茨城	SIMADA	島田	KAGAWA	香川
HITACH	日立	MISIMA	三島	EHIME	愛媛
TOCHIG	栃木	AICHI	愛知	KOCHI	高知
YAITA	矢板	TOYOHS	豊橋	FUKUOK	福岡
GUNMA	群馬	MIE	三重	KURUME	久留米
SAITAM	埼玉	ISE	伊勢	KITAKS	北九州
KODAMA	児玉	SHIGA	滋賀	SAGA	佐賀
CHIBA	千葉	HIKONE	彦根	NAGASK	長崎
CHOSHI	銚子	KYOTO	京都	KUMAMT	熊本
TOKYO	東京	OSAKA	大阪	OITA	大分
KANAGW	神奈川	HYOGO	兵庫	MIYAZK	宮崎
HIRATK	平塚	HIMEJI	姫路	KAGOSM	鹿児島
NIIGAT	新潟	TARUMI	垂水	OKINAW	沖縄
TAKADA	高田	MIKI	三木		
TOYAMA	富山	NARA	奈良		

4 もう一度 TONE SCAN キーを長く押すと地域が決定します。

5 ダイヤルを回してチャンネルを選択します。

・ワンセグモードの表示例と意味

●チャンネルサーチの方法

ワンセグ音声を聞くことができるチャンネルをサーチします。
選んだ地域チャンネルで受信できないときなどにサーチすると今聞けるチャンネルを探しリモコンIDに登録します。

1 ワンセグモードから[FUNC]キーを押して F を点灯させます。

2 TONE/SCAN キーを長く押します。
ディスプレイに「SEARCH」と表示されます。

3 再度、TONE/SCAN キーを長く押すとサーチを開始します。
数字が変わり、点が動いて表示されます。終わると数字とCHが表示されます。

注意

・サーチは終わるまで電源OFF以外の操作を受け付けません。
・サーチは地下街など電波状況の悪いところでは使えません。サーチに失敗すると「TV OFF」が表示されます。
・地域に登録されているチャンネルは本機設計時のものです。変更・更新はされません。登録されていないチャンネルはサーチをすると受信できるようになります。
・他県のTVも受信できる場所では、サーチを使うほうが多くのチャンネルを受信できるようになることがあります。

6-2-2 国際VHF(マリン無線)

プリセットモードの国際VHFには割当のチャンネルがあらかじめメモリーされています。

1 CHARGE [ENT] キーを押して、国際VHFバンドを選びます。Mrn表示が目印です。

PM Mrn
CH 16

2 ダイヤルを回してチャンネルを選びます。

6

●国際VHF(マリン無線)のスキャン

TONE [SCAN] キーを押しながらダイヤルを回すと「SCAN」か「DUAL」を選べます。

SCAN＝ 1chから88chまでをスキャンします。
半複信チャンネルは(▬ アイコンのあるチャンネル)海岸局側を受信します。

DUAL＝ 半複信チャンネルを受信中にDUALを選択すると、海岸と船舶の両チャンネルを交互に受信します。単信チャンネルでは動きません。

- スキャン中に表示される＊マークは船舶専用チャンネルの表示です。
- NAME [・] キーを押している間はどのチャンネルに合わせていても16chが受信できます。
- 半複信chは海岸局側です。SHIFT [0] キーを押すと船舶側を受信します。

6-2-3 受信について

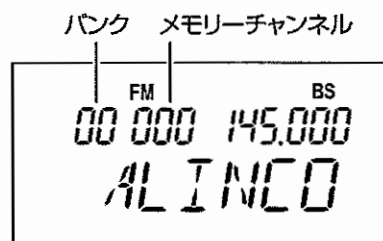
- 通信は放送ではありません。必要な時に、最小限の設備で通話をおこなうことが殆どで、頻繁に電波が出ている通信は非常に少ないものです。ラジオ放送のように簡単に通信が受信できるとは限りません。
- 信号を受信していないときに聞こえるノイズ（バックノイズ、ホワイトノイズなどと呼ばれる物）は、電波型式や空中状態、周波数などによって聞こえ方や音の大きさ、音質が変わりますが、異常ではありません。
- 使用する電源（ACアダプターや電池等）、場所や条件（蛍光灯やテレビなど電気機器の有無、木造と鉄筋、お住まいの地域、立ち止まっているか歩いているか…）、空中状態など様々な要因で受信できる電波の強さや音質は影響を受けますが、異常ではありません。
- 付属のホイップアンテナは、主に屋外でV／UHF帯を受信するために設計されています。建物の中や、長波・中波・短波・1000MHz以上のUHFバンドで効率よく受信するには、それらの周波数の受信に対応する市販の外部アンテナをお使いください。
- 送信タワーや送信所が集中する山の近くなど強電界地域では、例えば飛行機の通信にラジオ放送の音声が重なって聞こえるようなことがありますが、異常ではありません。後述するアッテネーターを使えばこれらの混信や妨害を低減できます。
- DJ-X81は非常に広い範囲の電波を受信する反面、特定の周波数帯専用に作られた無線機と比べると、専用の製品に感度や音質、音量などが劣ることがあります。これは回路設計が全く異なる製品であるためで、異常ではありません。

以上をご理解いただいた上で、引き続き本書をお読みください。尚、電波を受信しながらでないと動作の意味が分かりにくい機能があるため、操作の練習はＡＭやＦＭ放送を実際に受信しながらおこなうことをお勧めします。

6-3 メモリーモードでの運用

メモリーモードとは、あらかじめよく使う周波数などを登録しておき、受信したい周波数を呼び出して使うモードです。
周波数を使いやすいようにジャンルわけして登録する場所を「バンク」と呼び、登録された周波数を「チャンネル」と呼びます。本機には別冊の周波数データリストのように、人気のあるチャンネルをメモリーデータに書き込んでいますが、それを編集することもできます。

1 VFOモードから MW V/P/M キーを2回押すと、ディスプレイにバンクとメモリーチャンネルが表示されメモリーモードになります。

バンク　メモリーチャンネル
FM　BS
00 000 145.000
ALINCO
(この図は一例です。)

2 CHARGE ENT キーでバンクを選択します。

3 ダイヤルを回してチャンネルを選択します。
登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

参考

・CHARGE ENT キーを押しながらダイヤルを回してもバンクを選択できます。
・昇順でも降順でも自由に選択できます。

6-3-1 メモリーの種類と使いかた

DJ-X81には以下の7種類のメモリーバンクがあります。

通常メモリーバンク	メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計1000chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
クイックメモリーバンク	VFOモードで見つけた周波数を簡単に200chまで登録するバンクです。VFO/プログラムスキャン中でもメモリーできます。
プログラムスキャンバンク	決められた周波数範囲の中で信号を探すプログラムスキャン機能に使用します。50組の周波数範囲(上限と下限)を登録できます。
サーチパスメモリーバンク	スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておくと、VFOスキャンとプログラムスキャンにその周波数では止まりません。100chの周波数を登録できます。常に出ているノイズ信号などを登録すると便利です。

クイックサーチパス メモリーバンク	サーチパスしたい周波数を簡単に200chまで登録するバンクです。VFO/プログラムスキャン中でもメモリーできます。
プライオリティ バンク	プライオリティ機能(優先受信)に使用します。100chの周波数を登録できます。
盗聴器発見機能 バンク	盗聴器でよく使われている周波数を登録してあります。メモリーの登録や消去はできません。メモリースキップのみ変更できます。

注意

・サーチパスメモリー用バンクは、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするとエラー音が鳴ります。
・工場出荷時にメモリーに書き込まれているデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割当てや受信モードなどは変更になることがあります。弊社でもデータの見直しを行うことがありますが、データの信頼性は保証していません。メモリーデータのメンテナンスは、必要に応じて市販の周波数帳などを参考にお客様によって行ってください。

6

6-3-2 メモリーチャンネルの登録

1 VFOモードで登録したい周波数に合わせます。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイ左上に F を点灯させます。

(このときバンクやメモリーチャンネル番号なども表示されます。)

3 リングを回してバンクを選びます。

バンクとメモリーの関係は次のとおりです。

0～10	通常メモリーバンク (メモリーデータ変更などの理由で、初期設定の0～10は変更になる場合があります。)
At	クイックメモリーバンク
PS	プログラムスキャンバンク
PA	サーチパスメモリーバンク
P2	クイックサーチパスメモリーバンク
Pr	プライオリティバンク
bG	盗聴器発見機能バンク(編集不可)

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

6

4 ダイヤルを回してチャンネルを選びます。

バンクの種類によって登録できるチャンネルは次のとおりです。

0～10	000～999 （バンクの仕切り方によって登録できるチャンネル数は異なります。）
At	0～199
PS	0A～49b
PA	000～099
P2	000～199
Pr	000～199

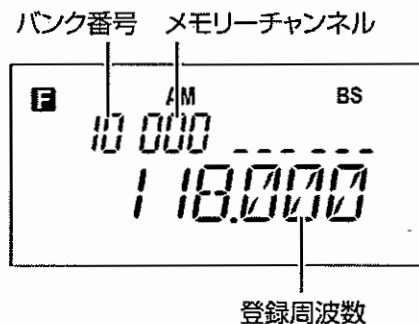
5 MW V/P/M キーを押すとメモリーに周波数が登録されます。

ビープ音がなりVFOモードに戻ります、次のチャンネルを編集することができます。

参考
・初期設定ではデータの登録されたチャンネルへの上書きはできません。
・書き込みができるチャンネルは「＿＿＿＿＿＿」が点滅します。
・メモリーの削除や編集を行うときは、「メモリー保護機能(☞P71)」の設定をお読みください。

例：118.000MHzの周波数をバンク10番の000チャンネルに登録する場合。

① VFOモードで周波数を118.000に合わせます。
② 「FUNC」キーを押します。F マークと小さな数字がいくつか表示されます。
③ リングを回して下記の図のバンク番号を10に合わせます。
④ ダイヤルを回してメモリーチャンネルを000に合わせます。
⑤ MW V/P/M キーを押すと、登録できます。ビープ音が鳴り、VFOモードに戻ります。同様に次のチャンネルを登録できます。

●メモリー登録例の図

工場出荷時のメモリーデータは、付属の周波数データリストをご覧ください。標準仕様のバンク１０番はカスタマイズ用の空きバンクです。

・プログラムスキャンチャンネルバンクは○○Aと○○bの2つのチャンネルを登録して使います。詳しくは「8-2 スキャン機能(☞P51)」をお読みください。

例)0Aに145.020MHzを登録、0bに146.100MHzを登録したとき。
プログラムスキャンを行ったときは、0Aの145.020MHzと0bの146.100MHzの範囲内でスキャンを行います。

参考

・A側に登録したときの電波型式とステップでスキャンします。A側設定をVFOモードで変更して登録することもできます。
・メモリーの追加増設はできません。
・登録したメモリーチャンネルは、周波数の代わりにアルファベット、記号、数字を表示することができます。詳細は「メモリーネーム機能(☞P37)」をお読みください。
・メモリーチャンネルの呼び出しはダイヤルの操作とテンキー入力のどちらでも可能です。

6-3-3 メモリーチャンネルとバンクの消去

盗聴器発見機能バンク以外の全てのバンク・チャンネルを消去できます。

1 「メモリー保護機能(☞P71)」にてプロテクトの設定を変更します。

クイックメモリー、クイックサーチパスメモリーでは、メモリー保護機能は動作しません。

2 [MW V/P/M] キーを押して、メモリーモードにします。

3 消去したいメモリーチャンネルを選びます。

4 [FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させせます。

5 F が点灯中に [MW V/P/M] キーを押すとメモリーされた周波数が消去されます。

[MW V/P/M] キーを長く押すと「BANK?」が表示され、もう一度 [MW V/P/M] キーを長く押すとそのチャンネルが含まれるバンク全てのチャンネルが消去されます。

・一度消去したデータの復元はできません。間違って必要なデータを消去しないようご注意ください。
・メモリー保護機能の説明はよくお読みください。設定によってはメモリーデータが全て消えることがあります。

●メモリーに登録が可能な項目

メモリーチャンネルには、下記の内容を記憶することができます。

- 周波数
- シフト周波数
- シフト方向
- トーン周波数
- DCSコード
- 空線信号周波数
- 受信モード（電波型式）
- 空線信号キャンセラー／トーンスケルチ／逆トーンスケルチ/DCS設定
- メモリーネーム
- スキップ設定
- 周波数ステップ

6

参考

弊社ウェブサイト（http://www.alinco.co.jp/☞電子事業部）より無償でダウンロードできるソフトウェアと別売りのPC接続ケーブル（ERW-7）を使用すると、これらのメモリーバンクを1000ch以内の任意のチャンネル数×最高50バンクまで自由に区切ることができるようになります。

- この操作を本機単体のボタン操作だけで行うことはできません。
- 生産を終了した、ERW-4CをERW-7の代わりに使うこともできます。

6-3-4 メモリーチャンネルの編集

登録したメモリーチャンネルを別のバンク・チャンネルに移動できます。

1 メモリーモードで移動したい周波数を選びます。

2 [FUNC]キーを押した後、NAME [・] キーを長く押します。

画面右上に小さく、周波数が表示され F アイコンが点滅します。

3 リングで移動先のバンク番号を、ダイヤルでチャンネルを選びます。

「_ _ _ _ _ _ _」と表示されるチャンネルには、すぐに移動できます。周波数が書かれているチャンネルはメモリー保護機能（☞P71）を解除しておかないと上書きできません。

4 NAME [・] キーを長く押すと移動します。

[FUNC]キーを押すとキャンセルされます。

6-3-5 メモリーチャンネルをVFOモードにコピーする

メモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。メモリーチャンネルから少し周波数をずらして受信したいときや、メモリーチャンネルを編集するときに便利です。

1 メモリーモードでVFOモードにコピーしたいチャンネルを選びます。

2 ダイヤルを長く押すと周波数はメモリーチャンネルのままVFOモードに切り替わります。

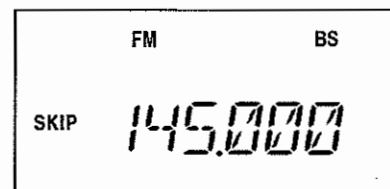
6-3-6 メモリースキップ機能

メモリースキップ機能とは、メモリースキャンのときに、設定したメモリーチャンネルを飛ばす機能です。放送や空線信号の出ているチャンネルは必ずそこでスキャンが止まるので、そのようなチャンネルに設定しておくと効率の良いスキャンが行えます。

1 メモリーモードでスキップさせたいメモリーチャンネルを選びます。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 [MONI]キーを押します。

ディスプレイ左に「SKIP」が表示され、メモリースキップが設定されます。
メモリースキップを解除するには対象のチャンネルを選んで上記の 2 と 3 の操作を行ってください。
「SKIP」の表示が消え、メモリースキップが解除されます。

6-3-7 メモリーネーム機能

メモリーモードで登録したメモリーチャンネルにアルファベット、記号、数字を合わせて6文字まで名前を付けることができます。

●メモリーネームの登録

1 メモリーモードにします。

2 名前を付けたいメモリーチャンネルに合わせます。

3 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

4 NAME を押します。

ディスプレイ右上に周波数が表示され、画面左にカーソルが点滅します。

5 キーやダイヤルを操作して文字を選択します。

文字を選ぶにはダイヤルを回します。カーソルを左右に動かすにはリングを回します。MW V/P/M キーを押すと編集した文字を全て消せます。

6 [FUNC] キーを押します。

メモリーネームが登録されます。

・入力できる文字

0	0	A	A	N	N	a	a	n	n	!	!	.	.	_	_
1	1	B	B	O	O	b	b	o	o	"	"	/	/	`	`
2	2	C	C	P	P	c	c	p	p	#	#	:	:	{	{
3	3	D	D	Q	Q	d	d	q	q	$	$	;	;	|	|
4	4	E	E	R	R	e	e	r	r	%	%	<	<	}	}
5	5	F	F	S	S	f	f	s	s	&	&	=	=	^	^
6	6	G	G	T	T	g	g	t	t	'	'	>	>		スペース
7	7	H	H	U	U	h	h	u	u	(	(	?	?		
8	8	I	I	V	V	i	i	v	v	)	)	@	@		
9	9	J	J	W	W	j	j	w	w	*	*	[	[		
		K	K	X	X	k	k	x	x	+	+	¥	¥		
		L	L	Y	Y	l	l	y	y	,	,	]	]		
		M	M	Z	Z	m	m	z	z	-	-	´	´		

参考

メモリーネームを消去するには？

・上記の **1** から **4** まで操作し、**5** で MW V/P/M キーを押してから[FUNC]キーを押すと、メモリーネームを消去できます。

DJ-X81 補足シート

DJ-X81 をお買いあげ頂きまして、誠にありがとうございます。
ここでは取扱説明書に記載されていない[クイックメモリー・クイックサーチパスメモリー]について
補足説明致します。

[クイックメモリー/クイックサーチパスメモリー]
ノイズなどのスキャン中に邪魔になる信号や、見つけた気になるチャンネルを、簡単に各 200ch まで専用メモリーバンクに登録できます。スキャンが止まって見つけた信号も、スキャン状態を保持したままメモリーできます。

●スキャンから外したい邪魔な信号の登録(クイックサーチパス)

VFO モードで消したい信号を受信した状態で、ダイヤルを長く押します。画面に「P2−数字」(例:P2−01)のような表示が出て登録が終わります。

●見つけたチャンネルを手軽にメモリーしたいとき(クイックメモリー)

VFO モードで目的の信号を受信した状態で FUNC キーを一度押してすぐ放し、画面左上に F アイコンが点灯している状態で、ダイヤルを長く押します。「AT−数字」(例:AT−01)のような表示が出て登録が終わります。

[注意]

・FUNC キーを長く押しすぎると鍵のマークが出てキーロックが掛かりますのでご注意ください。もう一度 FUNC キーを長く押すとキーロックが外れます。
・表示される数字はチャンネルの登録番号で書き込むごとに変わります。
・クイックメモリーした信号は、メモリーモードの P2(クイックサーチパス)と AT(クイックメモリー)の各バンクに収納されます。
・クイックサーチパスでは同じチャンネルの複数登録はできません。クイックメモリーでは同じチャンネルも登録できますが、エキスパートモードの設定で重複登録を禁止することもできます。この状態で重複する周波数を登録しようとすると、DUPERR と警告が表示されます。
・いずれも 200ch を超えると、それ以上のチャンネルは登録できなくなります。
・ クイックメモリーバンクは通常のメモリーバンク同様、内容を一度に消したり(取扱説明書 P.35)、書き込んだチャンネルを通常のサーチパスメモリーやメモリーバンクに移動したりすること(取扱説明書 P.36)もできます。
・ クイックメモリーバンクはセットモードのメモリー保護の対象ではないので、設定に関係なくバンクやメモリーの消去ができます。通常のリセットでは、クイックメモリーの内容は設定に関係なく消えません。

PF0241/FNEG-NI

7. キーボードに割り当てられた機能

DJ-X81では各キーの上部に印字されている機能がキーに割り当てられています。割り当てられた機能を設定するには、[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させてから、キーを押します。

7-1 ワイルドキー機能(ショートカット)

WILD1 [1]、WILD2 [2] キーのそれぞれに、セットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。
よく使う機能を登録しておくと、すばやく設定変更できます。
機能の登録方法は「ワイルドキー(1・2)への機能割り当て(☞P69)」を参照してください。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 WILD1 [1] キーまたは WILD2 [2] キーを押して割り当てた機能を呼び出します。

3 その後の操作は割り当てたセットモードの操作に沿っておこないます。

参考

・WILD1 [1] キーの初期設定は「モニター/ミュート機能設定」、WILD2 [2] キーは「スキャンタイプの切り替え」です。

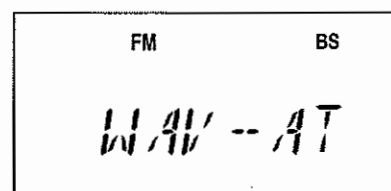
7-2 受信モード切り替え機能

受信したい信号の電波型式を手動で選ぶことができます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 MODE [3] を押します。

ディスプレイに「WAV-AT」と表示されます。

FM BS
WAV-AT

3 ダイヤルを回すか [MODE 3] キーを押して受信モードを選択します。

受信モードの説明

AT	あらかじめプログラムされている受信モードを自動的に選択します。
AM	振幅変調：主にAMラジオ、短波放送や航空無線などに使用されています。
FM	周波数変調：アマチュア無線や特定小電力無線などの通信に使用されています。
WFM(WF)	周波数変調：FMラジオや放送中継の電波など、音質の良さが重要なときに使われるFM方式です。通信用のFMと区別するためワイドFMと呼ばれています。

4 [FUNC]キーを押して終了します。

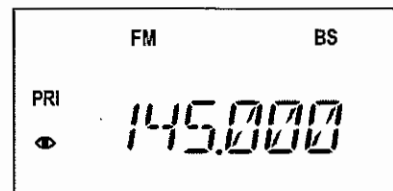
7-3 プライオリティ機能

2つのチャンネルを交互に受信し、待ち受け受信の効率をよくする機能です。メインチャンネルを5秒(※1)受信するごとに、プライオリティチャンネルを0.5秒受信し、信号の有無をチェックします。
よく聞くチャンネルをメインチャンネルに、気になるチャンネルをプライオリティにして使うと便利です。

1 メモリーモードでプライオリティチャンネルの登録を済ませておきます。(☞P33)

2 メインチャンネルで[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 [PRI 4] を押したままダイヤルを回して受信したいプライオリティチャンネルを選びます。

FM　BS
PRI
👁　145.000

4 [PRI 4] をはなすとプライオリティ受信をはじめます。

ディスプレイ左に「PRI」と表示されます。
プライオリティチャンネルを受信するときは 👁 マークが表示されます。
プライオリティチャンネルを受信したときはビープ音がなります。その信号がなくなるまで受信し続けます。(※2)

5 もう一度 [PRI 4] を押すと終了します。

参考

- プライオリティチャンネルにメモリーが登録されていないときは、プライオリティ機能は動作しません。
- プライオリティ機能が動作しているときは、スキャンできません。
- プライオリティはVFOモード、プリセットモードのAMラジオ放送、FMラジオ放送、メモリーモードで使えます。
- 5秒(※1)に一度、プライオリティチャンネルを受信するため、この間隔で「プツプツ」とメインチャンネルの音声が途切れて聞こえます。特に放送など、常に電波が出ている信号では気になりますが、故障ではありません。

※1 プライオリティチャンネル側を受信しにいく間隔はセットモードの「プライオリティ待ち受け時間設定(☞P67)」で変更できます。
※2 プライオリティチャンネル側で受信したときの停止時間はセットモードの「プライオリティ停止時間設定(☞P67)」で変更できます。

7-4 スキャンスピード切り替え機能

スキャンスピードを変更できます。
強い電波のみを受信したいときや、素早くスキャンをしたいときはスピードを速く、弱い電波も受信したいときはスピードを遅くします。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 SSPD 5 を押します。

FM BS
u-SPd
3

数字が表示されダイヤルを回すと5段階でスピードを調整できます。

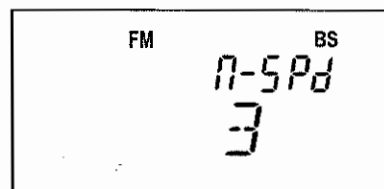
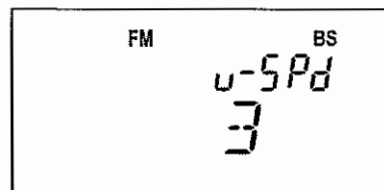
スキャンスピードは

「1」遅い ⟷ 「5」速い

の順で設定できます。

スピードを変更できるスキャンモードは次のとおりです。

- VFOスキャン
- プリセットスキャン(AMラジオ FMラジオ)
- プログラムスキャン

もう一度 SSPD 5 を押すと「M-SPd」と表示されます。

変更できるスキャンモードは次のとおりです。
・ メモリースキャン
・ プリセットスキャンの国際VHFマリンバンド

3 ［FUNC］キーを押して終了します。

参考

・ スキャンスピードを速くしすぎると、弱い信号ではスキャンが止まらないことがあります。

7-5 メモリースキャンとプログラムスキャンのリンク設定・確認機能

スキャンのときに、プログラムスキャンのペアやバンクを自由に組み合わせてグループ化することができます。
組み合わせるグループは9組まで設定でき、それぞれ WILD1 [1] ～ ANT [9] に対応しています。

7-5-1 メモリースキャンのバンクリンク設定

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 LINK [6] を押します。

表示されている「BK00」の00がバンク番号です。
表示されている「GroUP1」の1がグループ番号です。

3 設定や、状態を確認したいグループ番号(WILD1 [1] ～ ANT [9])を押します。

グループ番号が変わります。NAME [・] キーを押して出てくる「GroUPb 」は盗聴器発見機能バンクです。

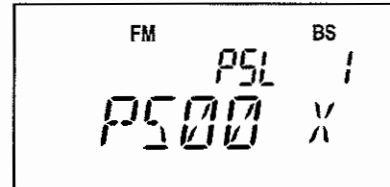
4 ダイヤルを回してバンク番号を選びます。CHARGE [ENT] キーを押すごとにリンクをしたいバンクは「○」させないバンクは「×」を設定します。

5 [FUNC]キーを押して設定を終了します。

7-5-2 プログラムスキャンのペアリンク設定

1. [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。
2. LINK 6 を押してメモリースキャンのバンクリンク設定を表示します。
3. SHIFT 0 を押すとプログラムスキャンのペアリンク設定画面に切り替わります。
   表示されている「PS00」の00がペア番号です。
   表示されている「PSL1」の1がグループ番号です。

FM BS
PSL 1
PS00 X

4. 設定や、状態を確認したいグループ番号(WILD1 1 ～ ANT 9)を押します。
   グループ番号が変わります。
5. ダイヤルを回してペア番号を選びます。CHARGE ENT キーを押すごとにリンクをしたいペアは「○」させないペアは「×」で設定できます。
6. [FUNC]キーを押して設定を終了します。

7-6 受信音質切り替え機能

受信した音声の音質を切り替える機能です。好みに合わせて設定してください。
受信モード(電波型式)によっても聞きやすさがかわることがあります。

1. [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。
2. AUDIO 7 を押します。
   ディスプレイに「AFtonE」と表示されます。
3. ダイヤルを回して音質をかえます。
   「LOW」と「HIGH」が交互に切り替わります。
4. [FUNC]キーを押して終了します。

FM HI BS
AFtonE
HIGH

注意

・ACARS受信時は必ずHIGHにしてください。

7-7 バッテリーセーブ機能

本機の電源を短い間隔で自動的にON/OFFさせることで、待機中の消費電力を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 BS/8 を押します。

ディスプレイに「bS」と表示されます

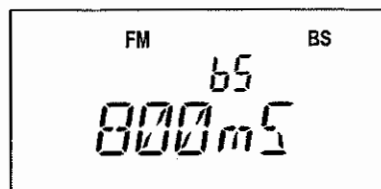
3 ダイヤルを回すと「OFF」←→「200mS」～「1800mS」を設定できます。

OFF以外はディスプレイに「BS」が点灯します。

・工場出荷時は800mSに設定されています。通常はOFFにする必要はありませんが、アマチュア無線で行われているパケット通信や航空無線のACARSのようなデータ通信を受信するときはOFFにしてください。

・信号を受信したり、スキャンを行っているあいだはバッテリーセーブ機能は働きません。バッテリーセーブ時間を長くする(数字を大きくする)と、信号を受信したときに音声のはじめが途切れることがあります。

・休止状態のときも、ディスプレイの表示は点灯しています。(ON/OFFに応じた表示の変化はありません。)

4 [FUNC]キーを押して終了します。

7-8 イヤホンアンテナ/外部アンテナの切り替え

イヤホンアンテナと外部アンテナを切り替えます。イヤホンアンテナを選択すると、FMラジオのような強い信号を外部アンテナなしで受信できます。

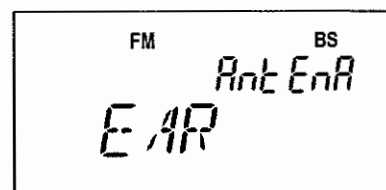
1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 ANT/9 を押します。

ディスプレイに「AntEnA」と表示されます。

3 ダイヤルを回すと「SMA」から「EAR」になり、イヤホンをアンテナとして利用できます。

ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
AntEnA
EAR

4 [FUNC]キーを押して終了します。

参考
- イヤホンアンテナは、コードの状態によって受信される信号が不安定になることがあります。
- イヤホンアンテナはFM放送や近くから出ている強い電波でないと正しく受信できません。特定の周波数にチューンしたものではありません。
- 市販のイヤホンでも動作します。

7-9 周波数シフト機能

現在受信している周波数に対して、ワンタッチで受信周波数をずらす機能です。例えば、レピーター(中継機)では、送信周波数(アップリンク周波数)と受信周波数(ダウンリンク周波数)の2つを使って通信しています。この機能を使用するとワンタッチで両方のチャンネルを切り替えられます。

7

7-9-1 設定のしかた

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

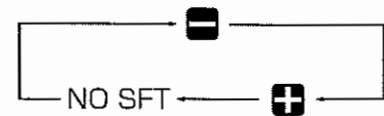
2 SHIFT 0 を押してシフトさせたい周波数の方向を合わせます。

キーを押すごとに表示が右のように切り替わります。

FM BS 439.500 5.000 −

− ：受信している周波数より低い方向にシフトします。

＋ ：受信している周波数より高い方向にシフトします。

NO SFT ：シフトしません(初期値)

3 ダイヤルを回しシフトさせる周波数を設定します。

[FUNC]キーを押したままダイヤルを回すと1MHz単位で周波数変更できます。

4 [FUNC]キーを押して終了します。

参考

- 通常、レピーターを介した通信はダウンリンク周波数（中継機が受信した信号を再送信する側の周波数）に合わせると受信できます。
- この機能は、タクシー無線のシステムのような、基地局側とタクシー側で異なった周波数を使用している通信を受信するときに使用します。
- 基地局側の音声が聞こえなくなったときに、ワンタッチでタクシー側の周波数に切り替えて受信することができます。
  但しこの場合、基地局側の電波は比較的強く受信しやすいですが、タクシー側の電波はあまり強くないために受信可能範囲にいないと音声は聞こえません。

7-9-2 使いかた

1 [SHIFT/0] を押している間シフトされた周波数を受信します。

シフト機能を解除するときは、[FUNC] キーを押してディスプレイに [F] を点灯させ、「NO SFT」が表示されるまで [SHIFT/0] キーを押して、再度 [FUNC] キーを押してください。

注意

- [SHIFT/0] キーを押している間はスキャンはできません。

7-10 外部DC端子の充電機能設定

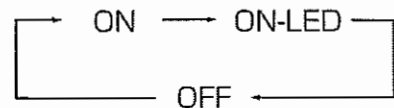
1 [FUNC]キーを押してディスプレイに [F] を点灯させます。

2 [CHARGE/ENT] を押します。

ディスプレイに「CHArGE」と表示されます。

FM BS
CHArGE
ON

3 ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

ON → ON-LED → OFF →（ONへ戻る）

ON	充電します。（初期値）
ON-LED	充電します。充電中はランプが赤く光ります。
OFF	充電しません。

- 充電スタンドにのせて受信する場合、常にバッテリーは充電状態になります。バッテリーを長持ちさせるためには週に1回以上は、バッテリーを使い切るまで充電スタンドから外して受信してください。
- 構造上、正常な乾電池や市販の単三型充電バッテリーはこの設定にかかわらず充電できませんが、電池の皮膜に傷があると充電して、故障や事故の原因になることが考えられますので、ご注意ください。

7-11 トーンスケルチ／逆トーンスケルチ機能

耳に聞こえにくい低周波信号（CTCSSトーン）を電波に乗せて、その信号の有無や周波数を通信機に判別させることで特定の通信の音声だけをスピーカーから聞こえるようにしているのがトーンスケルチです。
あらかじめ聞きたい通信のトーン周波数と同じ設定にしておけば、そのトーン周波数を受信したときだけ、スケルチを開くようにできます。
逆トーンスケルチ機能は、受信したトーン周波数と本機で設定したトーン周波数が一致しないときにスケルチを開く機能です。
タクシー無線（450～453MHz帯）などで、通話がないときに常に発信されている無変調信号にトーンを合わせて設定すると、通話のあるときだけスケルチが開くようになります。

1 トーン、または逆トーンを使って通信しているチャンネルに合わせます。

2 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 TONE SCAN キーを何度か押します。ディスプレイの T が点灯（トーンスケルチ）、あるいは点滅している状態（逆トーンスケルチ）を選びます。

4 ダイヤルを回してトーン周波数を選び［FUNC］キーを押します。

トーンスケルチのときはトーンの一致する信号を受信すると SQ が点灯しスケルチが開きます。
逆トーンスケルチのときはトーンの一致する信号を受信すると SQ が点灯しスケルチが閉じます。

●トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能を解除するには
上記 **3** のときにディスプレイにOFFが表示されている状態を選び[FUNC]キーを押します。

・トーンスケルチを使う場合も、通常のスケルチレベルは適正に調整してください。通常のスケルチを開いたままにしていると、トーンスケルチ動作に時間がかかります。
・まれに受信信号の周波数やトーンのズレ、信号強度などの理由から、正しく動作しないことがありますが無線機の故障ではありません。

7-12 DCS機能

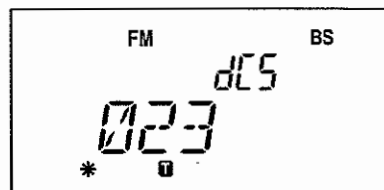
7

トーンスケルチ機能と似た原理で選択受信をおこなう機能です。104種類のDCSコードを選べます。

1 **DCSコードを使って通信しているチャンネルに合わせます。**

2 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させせます。**

3 **TONE SCAN キーを何度か押します。ディスプレイに T と*が点灯している状態を選びます。**

4 **ダイヤルを回してDCSコードを選び[FUNC]キーを押します。**
DCSコードの一致する信号を受信すると SQ が点灯しスケルチが開きます。

●DCS機能を解除するには。
上記 **3** のときにディスプレイにOFFが表示されている状態を選び[FUNC]キーを押します。

・DCS機能を使うときも、通常のスケルチレベルはあらかじめ適正に調整してください。通常のスケルチを開いたままにしていると、DCS動作に時間がかかります。
・まれに受信信号の周波数やトーンのズレ、信号強度などの理由から、正しく動作しないことがありますが無線機の故障ではありません。

7-13 空線信号キャンセラー機能

鉄道無線やMCA無線などで聞こえる空線信号音(「ピー」や「ギャラギャラ」音)を判別してスケルチをかける機能です。

1 空線信号の出ているチャンネルに合わせます。

2 [FUNC] キーを押してディスプレイに **F** を点灯させせます。

3 TONE/SCAN キーを何度か押しディスプレイ左下に 🚃 アイコンとJR、または300 ~ 3000の数字が表示されるメニューを選びます。

4 ダイヤルを回してピーやギャラギャラ音が消える数字に合わせます。**SQ** が点灯します。

[FUNC] キーを押して設定を終了します。

●空線信号キャンセラー機能を解除するには。

上記 **3** のときにディスプレイにOFFが表示されている状態を選び[FUNC]キーを押します。

・まれに受信信号の周波数やトーンのズレ、信号強度などの理由から、正しく動作しないことがありますが無線機の故障ではありません。

8. 便利な機能

8-1 キーロック機能

使用時や携帯時に誤ってキーやダイヤルが操作されることを防ぐ機能です。

8-1-1 キーロックの方法

[FUNC] キーを長く押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイに O┳ マークが点灯します。

注意

・キーロックを解除するときは、もう一度[FUNC]キーを長く押してください。ディスプレイの O┳ が消灯しキーロックが解除されます。

8-1-2 キーロック時にできる操作

音量調整：リングを回すと音量調整ができます。

スケルチの調整：[MONI] キーを押しながらダイヤルを回すとスケルチの調整ができます。

8-2 スキャン機能

自動的に周波数を切り替えて、出ている信号を探し出す機能です。
スキャン機能には下記の種類があります。

VFOスキャン	VFOモードで、バンド内の全周波数をあらかじめ設定したチャンネルステップでスキャンします。
プリセットスキャン	プリセットモードのバンド内の周波数をスキャンします。(ワンセグを除く。)
メモリースキャン	メモリーモードで、メモリーに登録した周波数だけをスキャンします。
プログラムスキャン	スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。

●スキャン中の共通操作

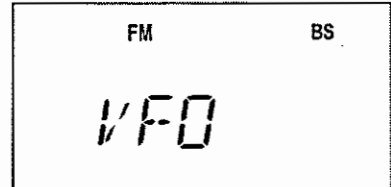
- TONE/SCAN キーを押すとスキャンが止まります。
- スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
- スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
- スキャンの開始方向は、最後にスキャンした方向によって決まります。(但し、プログラムスキャンの場合は、登録した○○Aから○○bへ向かってスキャンを開始します。)
- スキャンを再開する条件を設定することができます。設定方法は「スキャンタイプ切り替え(☞P66)」をお読みください。

8-2-1 VFOスキャン

1 MW V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2 CHARGE ENT キーを押してスキャンを行うバンドにします。

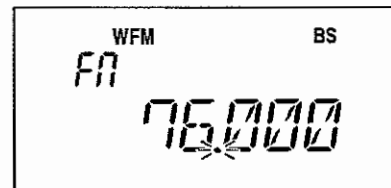
3 TONE SCAN キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「VFO」を表示させます。

4 TONE SCAN キーをはなすとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

8-2-2 プリセットスキャン

1 MW V/P/M キーを押してプリセットモードにします。

2 CHARGE ENT キーを押してAMラジオ、FMラジオ、または国際VHFを選びます。

3 TONE SCAN キーを押すとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

ワンセグ音声をスキャンするときは「6-2-1 ワンセグ音声(地上デジタルテレビ放送)操作手順」をお読みください。

参考

・国際VHFマリンのスキャン中は、16chに来たときビープ音が鳴ります。

8-2-3 メモリースキャン

メモリーモード時に、特定のバンクまたは、すべてのバンクをスキャンします。メモリースキャンには次の3種類があります。

単バンクスキャン	選んだ1つのバンクのみをスキャンします。
グループスキャン	前もって組み合わせしたバンクのみをスキャンします。
全バンクスキャン	バンク0～10とAtの全バンクがスキャンの対象になります。

参考

・通常メモリーとクイックメモリーバンク以外はスキャンできません。

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 TONE SCAN キーを押したままダイヤルを回して、スキャンの種類を選びます。

FM BS 145.000 SINGLE

メモリースキャンの種類は次のとおりです。
・SINGLE ………… 単バンクスキャン
・GROUP ………… グループスキャン
・ALL …………… 全バンクスキャン

単バンクスキャンを選んだときは、メモリーモードで表示されている現在のバンクだけがスキャンの対象になります。

3 TONE SCAN キーをはなすとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
もう一度SCANキーを押すとスキャンが止まります。

注意

・スキャン中はキー操作ができない機能がたくさんあります。
キー操作がうまくいかないときは、スキャン状態になっていないか確かめてください。

8

8-2-4 プログラムスキャン

スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。設定した上限の周波数と下限の周波数をプログラムチャンネルやペアと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。「メモリーチャンネルの登録(☞P33)」をお読みください。あらかじめプログラムスキャン用バンクにデータを登録しておかないと、以下の操作はできません。

・本機のプログラムスキャンには次の3種類があります。

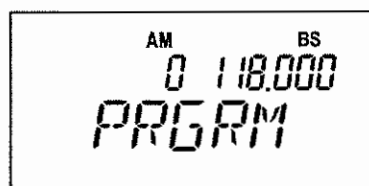
プログラムスキャン	選んだ1組のプログラムスキャン用バンクの範囲をスキャンします。
プログラムグループスキャン	前もって組み合わせたプログラムスキャン用バンクの範囲をスキャンします。
全プログラムスキャン	50組すべてのプログラムスキャン用バンクの範囲をスキャンします。

8

1 MW V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2 TONE SCAN キーを押したままダイヤルを回して「PRGRM」「PRGLNK」「PRGALL」の中から選択します。

AM BS
0 118.000
PRGRM

・PRGRM‥‥‥ プログラムスキャン
・PRGLNK‥‥‥ プログラムグループスキャン
・PRGALL‥‥‥ 全プログラムスキャン

3 TONE SCAN キーをはなすとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
もう一度SCANキーを押すとスキャンが止まります。

注意

・スキャン中はキー操作ができない機能がたくさんあります。
キー操作がうまくいかないときは、スキャン状態になっていないか確かめてください。

8-2-5 トーンスキャン機能

受信電波に含まれるCTCSSトーン周波数を自動的に判別する機能です。

1 VFOモードでトーンを調べたいチャンネルに合わせます。

2 TONE/SCAN キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「TONE」を表示させます。

3 TONE/SCAN キーをはなします。

スキャンを開始し、ディスプレイにトーン周波数が順に表示されます。トーンが発見されるとビープ音がなってディスプレイに SQ とトーン周波数が表示され、スキャンを停止します。

4 トーン周波数が受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。TONE/SCAN キーを押すとスキャンが終わり、VFOモードに戻ります。

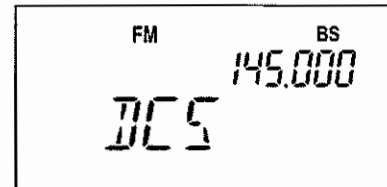
8

8-2-6 DCSスキャン機能

受信電波に含まれるDCSコードを自動的に判別する機能です。

1 VFOモードでDCSコードを調べたいチャンネルに合わせます。

2 TONE/SCAN キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「DCS」を表示させます。

3 TONE/SCAN キーをはなします。

スキャンを開始し、ディスプレイにDCSコードが順に表示されます。DCSコードが発券されるとビープ音がなってディスプレイに「SQイラスト」とDCSコードが表示されスキャンを停止します。

4 DCSコードが受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。TONE/SCAN キーを押すとスキャンが終わりVFOモードに戻ります。

8-3 緊急地震速報機能

本機は、FMラジオ放送で流れる緊急地震速報(EEW)・緊急警報放送(EWS)を常にモニターして自動でそのラジオ放送を受信できる機能です。
電源をOFFにしていても自動で電源をONにすることもできます。

注意

- 本機自体は地震や災害による被害・損害を回避・軽減するものではありません。
- 本機の不具合、誤った取り扱いにより速報・警報を受信できなかった場合でも、災害によって生じた被害・損害を補償するものではありません。

●緊急地震速報(EEW)とは

緊急地震速報(EEW)とは、地震波が2点以上の観測点で観測され、最大震度5弱以上と推定された場合に気象庁から発表される予報および警報です。
地震発生後大きな揺れが到達する前に知らせることを目的にしています。

気象庁が配信する緊急地震速報の詳細については、気象庁ホームページ(http://www.jma.go.jp/)をご覧ください。

8

注意

- NHK－FMでは全国の緊急地震速報を放送します。そのため受信地域とは関係のない速報でも受信します。
- 放送局によって発表される震度が異なることがあります。

●緊急警報放送(EWS)とは

緊急警報放送(EWS)とは、下記の警戒宣言、警報が発せられた場合に国民にいち早く知らせることを目的にしています。
内容により第1種と第2種に区別され放送されます。

放送内容	区別
・大規模地震の警戒警報	第1種
・災害対策基本法に基づく警報	第1種
・津波警報	第2種

●本機では、第1種、第2種の両方を受信します。

●操作方法

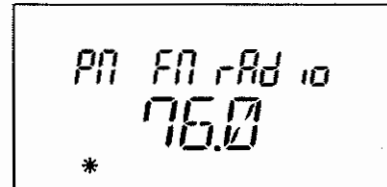
1 プリセットモードからFMラジオを選びます。

「6-2 プリセットモードでの運用(☞P27)」

2 ダイヤルを回して最寄のNHK-FM放送局の周波数に合わせます。

3 [FUNC]キーを押して F が点灯したら MW V/P/M キーを押します。

＊が点灯しその周波数で流れる速報・警報をモニターします。

PM FM rAd io
76.0
＊

4 セットモードの「緊急地震速報の設定(☞P72)」で好みの設定を選びます。

注意

・「緊急地震速報の設定(☞P72)」が「MODE 1」「MODE2」のときは電源がOFFのときでも電池を消費します。満充電のバッテリーでも40時間程度で電池がなくなりますので、外部電源を供給した状態での使用(待機)をおすすめします。
・プリセットモードで＊が点灯していないFM放送を聞いている間は緊急地震速報機能は動作しません。他のFM放送を聞きながらこの機能を有効にしたいときは、VFOモードで受信してください。

参考

・EEW・EWS放送をお好みの音量で聴きたい場合はセットモード「緊急地震速報の音量(☞P72)」で音量を合わせてお使いください。

8

●速報を受信したとき

・他の通信を受信中にEEWを受信した時は、ディスプレイに「EMGNCY」が表示され、白色LEDが点滅してＦＭラジオ放送に切り替わります。そのまま放置すると3分後に表示とＬＥＤが消灯して、前の状態にかかわらず登録したＦＭ放送を引き続き受信します。
・電源オフ時では、自動起動して3分間この状態が続いた後、電源が切れバックグランド受信に戻ります。
・ＥＭＧＮＣＹ表示中にダイヤルを押すと表示とＬＥＤが消灯して、登録したＦＭ放送を引き続き受信します。

●警報を受信したとき

・他の通信を受信中にEWSを受信した時は、ディスプレイに「EMGNCY」が表示され、白色LEDが点滅してＦＭラジオ放送に切り替わります。そのまま放置すると、EWSに含まれる終了信号を受信するか１０分が経過すると表示とＬＥＤが消灯して、前の状態にかかわらず登録したＦＭ放送を引き続き受信します。
・電源オフ時では自動起動した後、終了信号を受信するか１０分後に電源が切れ、バックグランド受信に戻ります。「ＥＭＧＮＣＹ」表示中にダイヤルを押すと表示とＬＥＤが消灯して、登録したＦＭ放送を引き続き受信します。

※ 速報EEWと警報EWSを両方とも受信した場合は、上記とは自動消灯のタイミングが数分程度延びますが、異常ではありません。

●試験信号を受信したとき

定期的に放送される試験信号を受信すると「-TEST-」が点滅します。白色LEDは点滅せず、音声も出ません。動作や解除方法は速報と同様ですが、自動解除は１０分です。

8-4 盗聴器発見機能

盗聴器で使われていそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴器を探知する機能です。盗聴器があると判断すると、表示と警告音で知らせます。
本機には「SILENT」と「SOUND」の２モードあります。
また、自分でメモリーした任意のバンクを盗聴器発見機能用バンクと組み合わせて盗聴器の探知ができます。

「SILENT」と「SOUND」モードの切り替えはセットモード内の「盗聴器発見機能モードの切り替え（☞P74）」をお読みください。

参考

- SILENTモードでは盗聴器発見の探知感度を設定できます。セットモード内の「盗聴器発見機能の感度設定（☞P74）」をお読みください。
- 盗聴器発見機能では、盗聴器発見機能用バンクと組み合わせたバンク内のメモリーチャンネルを探知します。「7-5-1　メモリースキャンのバンクリンク設定（☞P42）」をお読みください。

注意

- これらの機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。盗聴器を発見できなかったことに対する補償はご容赦ください。
- 弊社では、盗聴器発見や発見された盗聴器の処理などのサービスは一切行っておりません。また、そのような件に関するお問い合わせにはご返答致しかねます。
- これらの機能では、ノイズや受信場所の環境により誤動作が起こりがちですが、動作原理上避けられないものです。
- 産業スパイのようなレベルで情報を得ようとする人は、既に本機のような製品が販売されていることを熟知していて、発見されないような手段を使ったり電波ではなくもっと単純な方法で情報を収集したりすることもあります。情報が漏洩している確信があれば、興信所のようなプロにご相談ください。

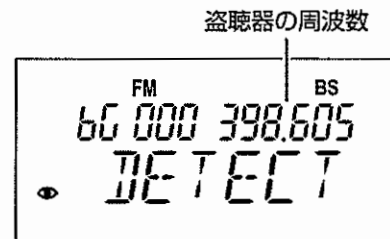
8-4-1 SILENTモードでの探知

信号を受信するとその受信音をスピーカーから出し、盗聴器であれば起こる「ハウリング」という現象の有無によって精度の高い探知をするモードです。初期状態ではこちらが設定されています。

●SILENTモードでの注意点

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- ノイズなどの影響で誤動作し、スキャンが止まることがあります。盗聴器であれば、ハウリング音に混じって必ず周囲からの音が聞こえます。

1 [MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押します。

ディスプレイに 👁 マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中のビープ音はありません。盗聴器があると判断すると警告音をならし、ディスプレイに右のように表示します。
周囲の音がスピーカーから聞こえてくれば盗聴器が仕掛けられている可能性があります。(音が大きくなるので注意してください。)

2 ダイヤルを回して音量を調整できるようにしておきます。

本機でハウリングの音(キーン音)が発生するように音量を調整し、盗聴器を探します。このときスピーカーの開口部はふさがないでください。

3 本機をゆっくり動かします。

盗聴器に近づくとハウリングの音が発生しやすくなり、盗聴器から離れるとハウリングの音が発生しにくくなります。

4 再度、[MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押すと盗聴器発見機能を終了して、通常の受信モードに戻ります。

8

8-4-2 SOUNDモードでの探知

●SOUNDモードの特徴

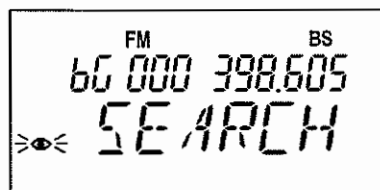
DJ-X81から音を出し、盗聴器にその音を感知させ、その信号をDJ-X81が受信するまでの時間差を測り、盗聴器の探知と盗聴器までのおおまかな距離を判定します。盗聴器があると判断すると盗聴器までの距離を音と表示によって教えてくれるのが特徴です。探知中はピーと大きな音をたてます。

●SOUNDモードでの注意点

・このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
・盗聴器発見機能の有効距離は約1 ～5mです。
・盗聴器発見機能は周囲の音や盗聴器の電波の強さ、マイク感度などに大きく影響されます。周囲環境により(音が反響しやすいところなど)誤動作または使用できない場合があります。
・盗聴器探知中、本機を急に動かすと、ドップラー効果により誤動作します。
・スピーカーの向きと盗聴器の位置関係で正常に動作しないことがあります。
・2300Hzの変調がある電波を受信しているときは、正常に動作しません。

8

1 [MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押します。

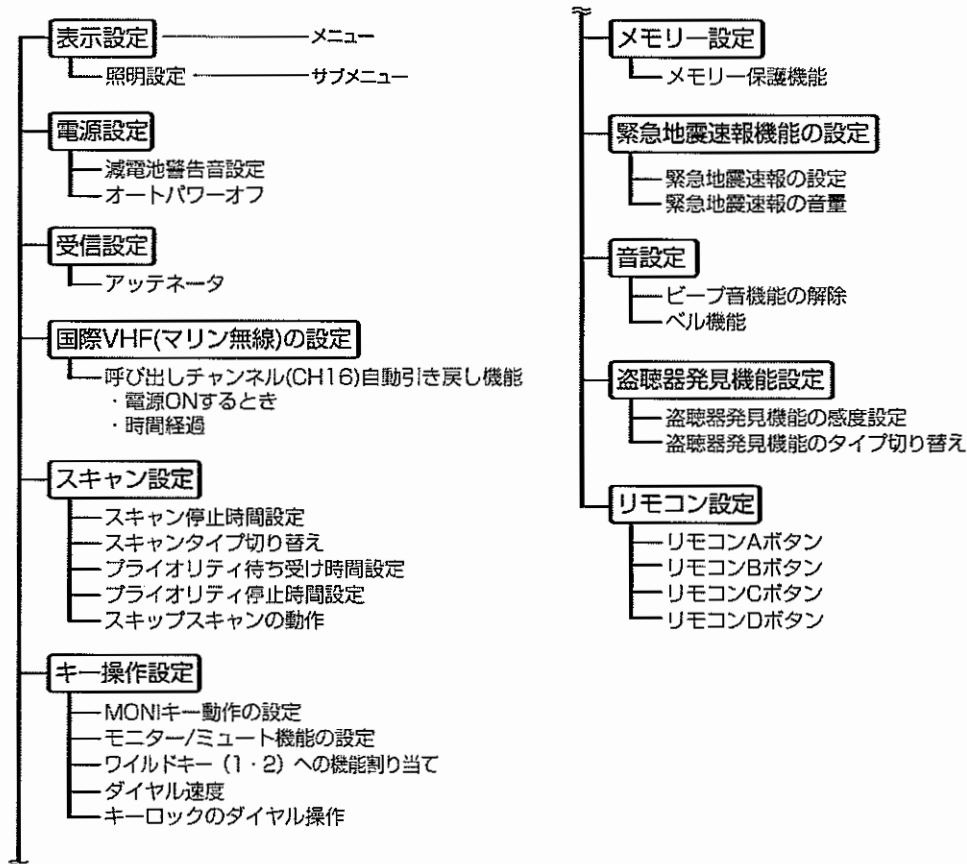
ディスプレイに 👁 マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中は連続したピー音が出ます。
指定した範囲のスキャンを行って一定時間が経過しても見つからないときは「STOP」と表示して、探知を終了します。

2 DJ-X81をゆっくり動かしながら盗聴器がありそうな場所を探します。

盗聴器があると判断すると「ピッ·ピッ·ピッ」と音が出ます。
本機が盗聴器に近づくと矢印が長くのびて音の間隔が短くなり、盗聴器から離れていくと矢印が短く縮んで、音の間隔が長くなります。

3 再度、[MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押すと盗聴器発見機能を終了して、通常の受信モードに戻ります。

・盗聴器によく使用されている周波数の他に探知したい周波数を盗聴器発見用バンクと組み合わせて盗聴器の探知を行ったときはスキャン時間が長くなる場合があります。(☞P42)

9. セットモード

各種機能を用途にあわせて変更することで本機をより使いやすくすることができます。
セットモードでは、次の項目をカスタマイズできます。
項目の目次を「メニュー」、その下にある設定項目を「サブメニュー」と呼びます。

●セットモードの設定方法

1. [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。
2. ダイヤルを押すとセットモードになります。
3. リングを回して、セットモードのメニューを選択します。
4. ダイヤルを押すと、サブメニューが表示されます。
5. リングを回してサブメニューを選択し、ダイヤルを回して設定を変更します。
6. [MONI]キーを押すとセットモードのメニュー選択画面に戻ります。
7. [FUNC]キーを押すと確定してセットモードを終了できます。

・ 上級者が機能の意味や使い方を分かって設定するセットモード項目を使うには、下記の操作でエキスパートモードにします。意味が分からず設定するとかえって使いにくくなったり、電池の消費が増えたりするなどの不都合が出る場合がありますので、受信に慣れるまではエキスパートモードはお使いにならないことをお勧めします。

1 **[MW V/P/M] キーを押してVFOモードにします。**

2 **[FUNC]キーを長く押してキーロックします。**

3 **[FUNC]キーを6回押して表示左上に「E」が表示されればセットモードのサブメニュー項目が増えます。**

機能の詳細については弊社ホームページ(http://www.alinco.co.jp)をご覧ください。

・ エキスパートモードで設定した内容は一般モードに戻っても、リセットをしない限り記憶しています。リセットで消したくないときは、レストア機能をお使いください。

9-1 表示設定

この項目はディスプレイ表示や照明の設定をおこないます。

1 **セットモードのメニューから <DISP>を選択します。**

2 **ダイヤルを押すと、表示設定のサブメニューに入ります。**

9-1-1 LAMP動作の選択

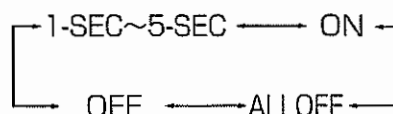
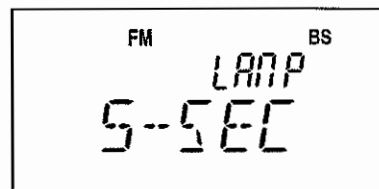
ディスプレイの照明に使っているランプの点灯・消灯の動作を設定します。照明を多用すると電池を早く消費します。

1 **リングを回して「LAMP」を選択します。**

ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
LAMP
5-SEC

2 **ダイヤルを回すと図のように切り替わります。**

1-SEC~5-SEC → ON → ALLOFF → OFF → 1-SEC~5-SEC

OFF	ランプを点灯させません。
1-SEC ～ 5-SEC	本機を操作すると、1 ～ 5秒間ランプが点灯します。
ON	ランプを常に点灯させます。
ALLOFF	白色LED以外、一切のランプを消灯します。

9-2 電源設定

この項目では電源関連の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから<POW>を選択します。

2 ダイヤルを押すと、電源設定のサブメニューに入ります。

9-2-1 減電池警告音設定

電池が減って電源が切れる前に「ピーピー」と鳴って電池交換を音で知らせます。

1 リングを回して「bAtALM」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。

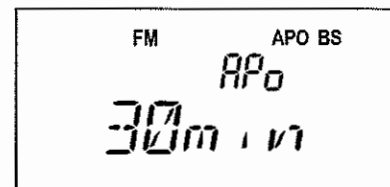
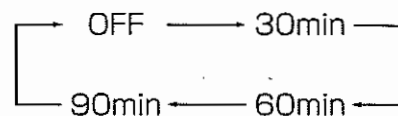
「OFF」にすると電池が減っても音がなりません。

9-2-2 APO機能

APOは自動電源OFF（Auto Power Off）の略です。設定した時間、無操作状態が続くと、ビープ音がなり自動的に電源が切れます。

1 リングを回して「APo」を選択します。

2 ダイヤルを回すと表示が変わり、APO機能のOFFと時間設定ができます。30分、60分、90分とOFFが選択できます。

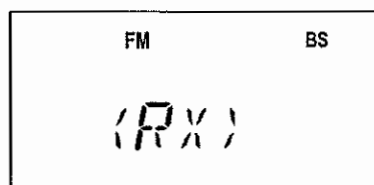
ディスプレイに右のように表示されます。

電源が切れたとき再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチを押してください。

参考

・信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作を行うと、カウントがリセットされ、改めてタイマーが動作します。
・スキャン・プライオリティ・盗聴器発見機能を動作しているときはタイマーが動作しません。

9-3 受信設定

この項目では快適に受信をするための設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから<RX>を選択します。

2 ダイヤルを押すと、受信設定サブメニューに入ります。

9-3-1 アッテネーター(ATT)機能

受信している信号が他のチャンネルから強力な信号の影響を受けているような場合に使用します。ONに設定すると目的の信号の強さは弱くなりますが、不要な電波も弱くなるため結果として目的の信号をクリアに聞くことができる場合があります。減衰量は約20dBです。

1 リングを回して「Att」を選択します。

2 ダイヤルを回し「ON」にするとディスプレイ上側に「ATT」が点灯します。

参考

・アンテナコネクターからつなぐアンテナ(付属または外付けアンテナ)を使用しているときのみ動作します。通常は「OFF」でお使いください。
・受信感度が悪くなったと感じた時は、まず表示にATTマークが出ていないか確認してください。

9-4 国際VHF(マリン無線)の設定

この項目ではプリセットモードで国際VHF(マリン無線)を快適に受信するための設定をおこないます。

1 セットモードメニュー<MRN>を選択します。

2 ダイヤルを押すと、マリン無線のサブメニューが表示されます。

9-4-1 呼び出しチャンネル(CH16)自動引き戻し機能

マリン無線のCH16は呼出・応答・非常連絡用のメインチャンネルで、船舶は常にこのチャンネルを受信、通話するときだけ別のチャンネルに移ります。ここではCH16への自動復帰条件が選べます。

●電源が入ったときに移動する

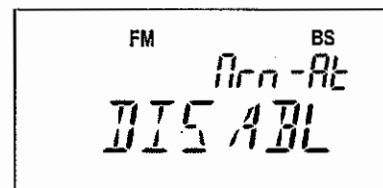
1 リングを回して「Mrn-16」を選択します。

2 ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。

ONを選ぶと、本機の電源を入れるたびに前のチャンネル設定に関係なく、国際VHFの初期チャンネルは16CHにリセットされます。

●通信が無い一定の時間が過ぎると移動する

1 リングを回して「Mrn-A t 」を選択します。

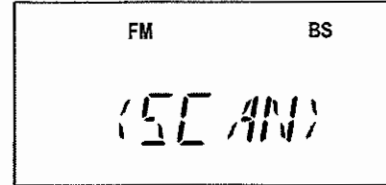
2 ダイヤルを回すと「DISABL」←→「5−SEC」〜「10−MIN」を設定できます。

SECは秒、MINは分を表します。

DISABL	常に受信中のチャンネルにとどまります。
「5−SEC」〜「10−MIN」	スケルチが閉じてから、設定時間が経過すると自動的にCH16に戻ります。

9-5 スキャン設定

本機に搭載されている様々なスキャン機能の設定をおこないます。

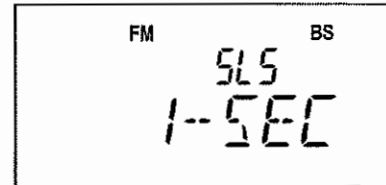
1 セットモードのメニューから<SCAN>を選択します。

2 ダイヤルを押すと、スキャン設定のサブメニューに入ります。

9-5-1 スキャン停止時間設定

スキャン中に受信した信号が無くなったとき、もう一度スキャンを開始するまでの時間を設定します。

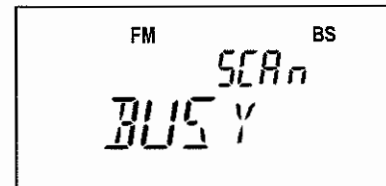
1 リングを回して「SLS」を選択します。

2 ダイヤルを回すと「1－SEC(1秒)」～「60－SEC(60秒)」の範囲で設定できます

9

9-5-2 スキャンタイプ切り替え

スキャンを行うときのスキャンの再開条件を選びます。

1 リングを回して「SCAn」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

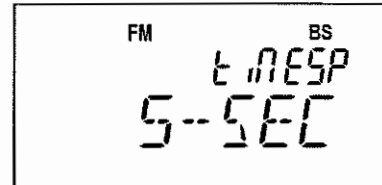
2 ダイヤルを回すと「BUSY」←→「1SECT」～「25SECT」が表示されます。

「BUSY」はビジースキャンモード、「1SECT」～「25SECT」はタイマースキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。

ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	スキャン停止後、信号があっても設定時間が経過するとスキャンを再開します。 タイマーの時間は「1SECT」(1秒)～「25SECT」(25秒)の間で設定が可能です。

9-5-3 プライオリティ待ち受け時間設定

プライオリティ機能でのメインチャンネルの待ち受け時間を選択します。

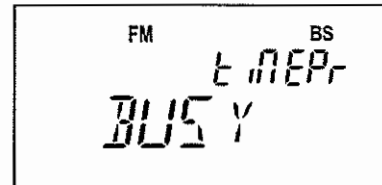
1 リングを回して「tiMESP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「5−SEC(5秒)」〜「10−MIN(10分)」の範囲で設定できます。

9-5-4 プライオリティ停止時間設定

プライオリティ機能でプライオリティチャンネルを受信したときに停止する時間を選択します。

1 リングを回して「tiMEPr」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「BUSY」←→「1-SEC」〜「10−MIN」が表示されます。

「BUSY」はビジースキャンモード、「1-SEC」〜「10−MIN」はタイマースキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。

ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	スキャン停止後、信号があっても設定時間が経過するとスキャンを再開します。 タイマーの時間は「1-SEC」(1秒)〜「10−MIN」(10分)の間で設定が可能です。

9-5-5 スキップスキャンの動作

サーチパスメモリーチャンネルとクイックサーチパスメモリーバンクに登録した周波数やスキップ指定したメモリーチャンネルを「スキップする/スキップしない」が選べます。

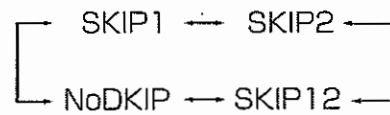
サーチパスメモリーチャンネルとクイックサーチパスメモリーバンクに登録した周波数は、VFOスキャン、プログラムスキャン、プリセットスキャン(テレビは除く)のときにスキップされ、スキップ指定したメモリーチャンネルはメモリースキャン時にスキップされます。

メモリースキャン時には、サーチパスメモリーチャンネルとクイックサーチパスメモリーバンクに登録した周波数はスキップされません。

1 **リングを回して「SCAn」を選択します。**
ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
SCAn
SKIP 1--

2 **ダイヤルを回すと表示が図のように切り替わります。**

SKIP1 → SKIP2 → SKIP12 → NoDKIP → SKIP1

SKIP1-	サーチパスメモリーバンク(PA)の周波数とスキップ指定したチャンネルを除いてスキャンします。
SKIP-2	クイックサーチパスメモリーバンク(P2)の周波数とスキップ指定したチャンネルを除いてスキャンします。
SKIP12	サーチパスメモリーバンクとクイックサーチパスメモリーバンクの周波数とスキップ指定したチャンネルを除いてスキャンします。
NoSKIP	スキップしないでスキャンします。

9

9-6 キー操作設定

本機でのキー操作を設定できます。

1 **セットモードのメニューから<KEY>を選択します。**

2 **ダイヤルを押すと、キー操作のサブメニューが表示されます。**

9-6-1 MONIキー動作の設定

[MONI]キーを押したときの動作を設定できます。

1 **リングを回して「Moni」を選択します。**
ディスプレイに右のように表示されます。

2 **ダイヤルを回して「PUSH」←→「HOLD」を設定できます。**

PUSH	[MONI] キーを押しているときだけモニター機能、またはミュート機能が動作します。
HOLD	[MONI] キーを押し、もう一度押すまでモニター機能、またはミュート機能が動作します。

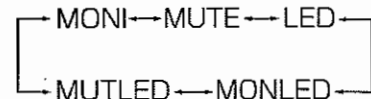
9-6-2 モニター／ミュート機能の設定

[MONI] キーを押したときの動作をモニター、またはミュートに設定できます。

1 **リングを回して「Moni」を選択します。**

ディスプレイに右のように表示されます。

2 **ダイヤルを回すと図のように切り替わります。**

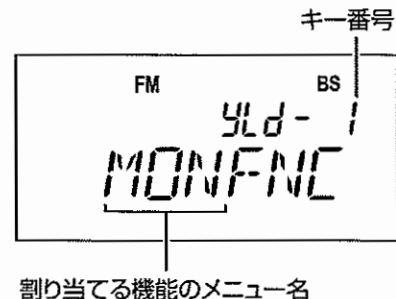
MONI→MUTE→LED→MUTLED→MONLED→MONI

MONI	[MONI]キーを押すと一時的にスケルチを開けます。
MUTE	[MONI]キーを押すと一時的に音を消します。
LED	[MONI]キーを押すと一時的に白色LEDが点灯します。
MONLED	[MONI]キーを押すと一時的に白色LEDが点灯しスケルチを開けます。
MUTLED	[MONI]キーを押すと一時的に白色LEDが点灯して、音を消します。

9-6-3 ワイルドキー（1・2）への機能割り当て

WILD1 [1] キーと WILD2 [2] キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと素早く設定の変更ができるようになります。

1 **リングを回して「YLd-1」「YLd-2」を選択します。**

ディスプレイに右のように表示されます。

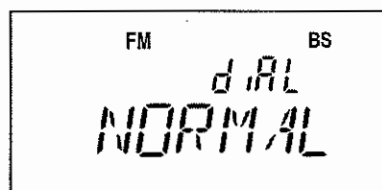
2 **ダイヤルを回すと WILD1 [1] キーと WILD2 [2] に割り当てられる機能が表示されます。**

9-6-4 ダイヤルターボ機能

ダイヤルを早く回したとき通常よりも早く数値が動く機能です。

1 リングを回して「diAL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
diAL
NORMAL

2 ダイヤルを回すと「NORMAL」←→「TURBO」を設定できます。

NORMAL	ターボを無効にします。
TURBO	ターボを有効にします。

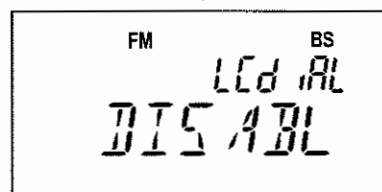
9-6-5 キーロック中のダイヤル操作

キーロック中にダイヤル操作を有効にするか無効にするか選べます。

1 リングを回して「LCdiAL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

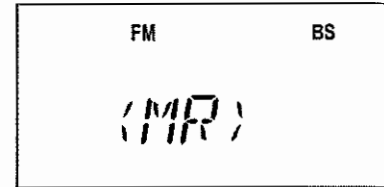
FM BS
LCdiAL
DISABL

2 ダイヤルを回すと「DISABL」←→「ENABLE」が設定できます。

DISABL	ダイヤルもキーロックされます。
ENABLE	キーロック中でもダイヤルが使えます。

9-7 メモリー設定

この項目ではメモリー機能の設定をおこないます。

1 **セットモードのメニューから<MR>を選択します。**

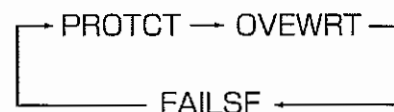
2 **ダイヤルを押すと、メモリー設定サブメニューに入ります。**

9-7-1 メモリー保護機能

メモリーモードに登録されているチャンネルを編集(上書き、消去)できるようにします。

1 **リングを回して「ProtCt」を選択します。**

ディスプレイに右のように表示されます。

2 **ダイヤルを回すと図のように切り替わります。**

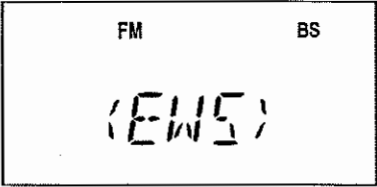
PROTCT → OVEWRT → FAILSF →

PROTCT (プロテクト)	メモリー保護を有効にします。登録されたメモリーは編集できません。
OVRWRT (上書き許可)	メモリー保護を無効にします。登録されたメモリーを編集できるようになります。
FAILSF (一時許可)	登録されたメモリーを編集できるようになりますが、電源を入れ直すとメモリー保護が有効になり編集できなくなります。

メモリーチャンネルの消去は「メモリーチャンネルとバンクの消去(☞P35)」をお読みください。

9-8 緊急地震速報機能の設定

この項目では緊急地震速報機能に関する設定をおこないます。

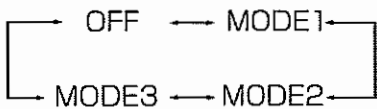
1 セットモードメニュー <EWS>を選択します。

2 ダイヤルを押すと、緊急地震速報機能のサブメニューが表示されます。

9-8-1 緊急地震速報の設定

緊急地震速報機能の動作方法を選択します。

1 リングを回して「ModE」を選択します。

2 ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

OFF → MODE1 → MODE2 → MODE3 → OFF

OFF	動作しません。
MODE1	常にこの機能が有効になっています。
MODE2	電源OFFのときだけ動作します。自動で電源が入ります。
MODE3	電源ONのときだけ動作します。電源OFFのときは動作しません。

9-8-2 緊急地震速報の音量

緊急地震速報の音量を設定値で聞くのか、専用に設定した別の音量で聞くのかを選択できます。

FM BS
voL
USER

1 リングを回して「voL」を選択します。

2 ダイヤルを回すと「USER」←→「VOL-0」～「VOL-30」を設定できます。

USER	通常のボリュームの設定レベルで聞けます。
VOL-0 ～ VOL-30	31段階で設定できます。

9-9 音操作

この項目では音に関する設定をおこないます。

1 **セットモードのメニューから<SND>を選択します。**

2 **ダイヤルを押して、音設定のサブメニューに入ります。**

9-9-1 ビープ音機能の解除

キー操作を行ったときになる音をビープ音と呼びます。この音をならないようにすることができます。

1 **リングを回して「bEEP」を選択します。**

ディスプレイに右のように表示されます。

2 **ダイヤルを回すと「ON」←→「OFF」を設定できます。**

OFFにするとビープ音はなりません。

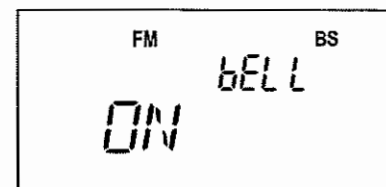
・この設定をOFFにするとAPOのタイムアウト時のアラームやベル機能のベル音もなりません。

9-9-2 ベル機能

ベル(BELL)は信号を受信したときに音とアイコンで知らせる機能です。

1 **リングを回して「bELL」を選択します。**

ディスプレイに右のように表示されます。

2 **ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。**

ONにするとディスプレイに が点灯します。信号を受信すると が点滅しベル音がなります。次にキー操作を行うまで は点滅しているので不在のときに信号を受信したことがわかる「着信確認」としても使えます。

9-10 盗聴器発見機能設定

この項目では盗聴器発見機能に関する設定をおこないます。

1 セットモードメニュー<BUG>を選択します。

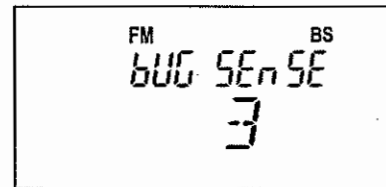
2 ダイヤルを押すと、盗聴器発見機能のサブメニューが表示されます。

9-10-1 盗聴器発見機能の感度設定

SILENTモード時の盗聴器発見機能の探知感度を設定します。

1 リングを回して「bUG SEnSE」を選択ます。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと1～5までの範囲で感度を設定できます。

初期値は3です。

盗聴器発見機能の感度は「1」高い←→「5」低いの順で設定できます。

注意

・感度を高くすると、誤動作を起こしやすくなります。低くすると誤作動は減りますが、盗聴器の近くでないと反応が鈍くなります。

9-10-2 盗聴器発見機能モードの切り替え

盗聴器発見機能の探知方式を設定ます。

FM BS
bUGtYP
SILENT

1 リングを回して「bUG tyP」を選択ます。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回して「SILENT」←→「SOUND」を選択します。

盗聴器発見機能の詳細は「盗聴器発見機能(☞P58)をご覧ください。

9

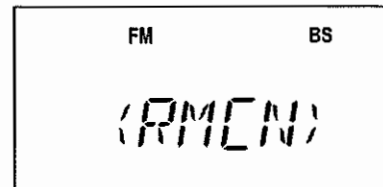
9-11 リモコン設定

オプションのリモコン(EDS-12)を使うときだけのメニューです。
リモコンに下記の機能を自由に割り当てることができます。割り当てられるボタンはA～Dの4個あります。

1 セットモードのメニューから<RMCN>を選択します。

2 ダイヤルを押してリモコン設定のサブメニューに入ります。

3 リングを回して「rC-A～d」を選択します。

4 ダイヤルを回して「A～d」キーに割り当てたい機能を選択します。
割り当てられる機能は以下の中から選べます。

初期割り当て	メニュー名	機能
	ATT	アッテネーター機能
	ANTENA	イヤホンアンテナ、SMAアンテナの切り替え
	ABAR	AMラジオバーアンテナの切り替え
	SBAR	短波放送バーアンテナの切り替え
	BEEP	ビープ音機能の解除
	BELL	ベル機能
	GROUP	グループスキャンの切り替え(注1)
KEY C	UP	アップキー
KEY D	DOWN	ダウンキー
KEY A	V/P/M	VFO/プリセット/メモリーモードの切り替え
	AUX IN	外部入力切り替え(注2)
	TONE	トーンスケルチ機能
	REVTON	逆トーンスケルチ機能
	TRAIN	空線信号キャンセラー機能
	MONI	MONIキー
KEY B	BAND	バンド切り替え
	PRIO	プライオリティ機能
	SPEED	スキャンスピード切り替え機能
	AFTONE	受信音音質切り替え

注1　EDS-12でのみ使える機能です。通常の操作ではできません。キーを押すごとに、グループスキャンのグループを切り替えられます。
注2　スケルチが開いたときに自動でDJ-X81側に切り替えるか、音声をポータブルプレイヤー側に固定するかを選択する機能です。

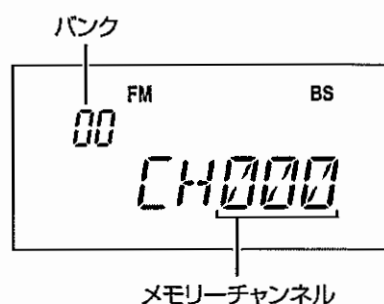
10. チャンネル表示モード

メモリーモードで、周波数のかわりにバンク・チャンネル番号のみを表示し、その他の機能も制限したモードです。業務用の「受令機」としても使えます。

1 あらかじめメモリーを登録しておきます。

2 メモリーモードにして電源を切ります。

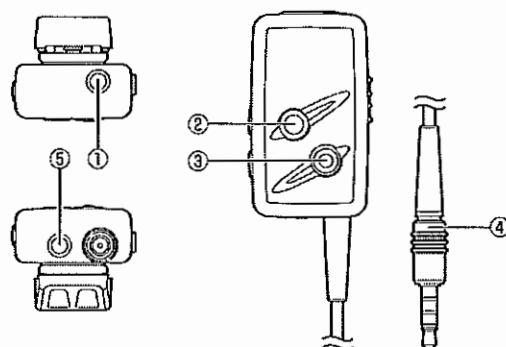
3 ［MONI］キー、MW V/P/M キーと AUDIO 7 を押しながら電源を入れます。

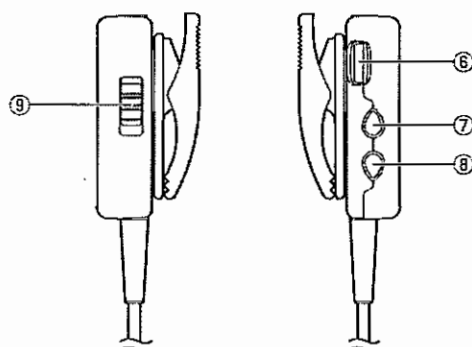
ディスプレイに右のように表示されます。
同じ操作を行うと解除できます。

参考

・チャンネル表示モード時は、バンク・チャンネルの変更、音量調整、スケルチ調整、MONI/MUTE機能、メモリースキャン、キーロック以外の操作はできません。
・この状態では、一切のリセット操作を受け付けません。

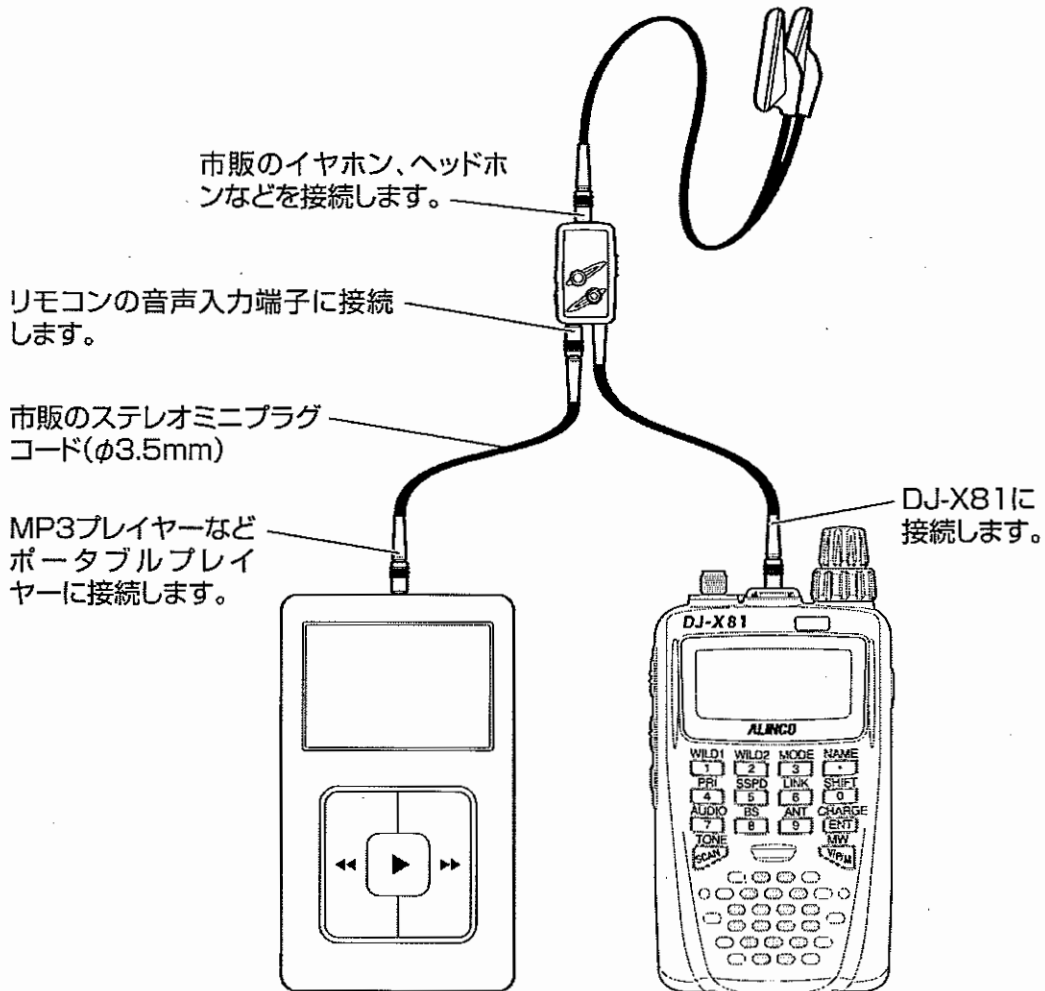
11. オプションの使いかた

11-1 リモートコントローラーの使いかた

11-1-1 上面部、下面部、前面部

No.	名称	機能
①	イヤホン	イヤホン出力端子です。 ここにイヤホンなどを接続します。
②	操作ボタンA	初期値ではV/P/Mキーです。
③	操作ボタンB	初期値ではBANDキーです。
④	イヤホンコード	DJ-X81のイヤホンジャックへ接続します。
⑤	音声入力	ここへMP3プレイヤーなどポータブルプレイヤーを接続します。

11-1-2 側面部

No.	名称	機能
⑥	ボリューム	音量を調整します。音声入力⑤からの音量変更はできません。
⑦	操作ボタンC	初期値ではUPキーです。
⑧	操作ボタンD	初期値ではDOWNキーです。
⑨	ロックスイッチ	リモコンのキーロックができます。

11-2 リモコンのつなぎかた

リモコンは以下のようにつなぎます。

11-3 リモコンの機能

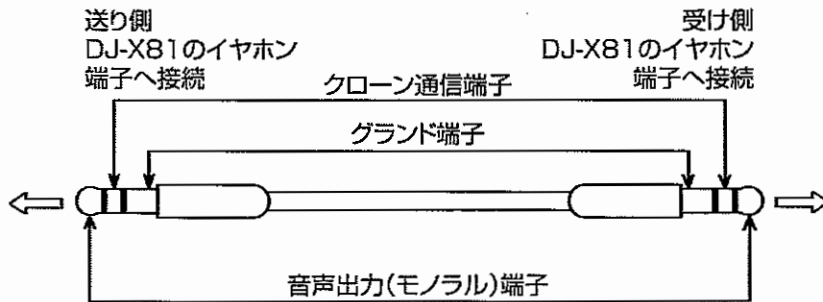
・ イヤホンやヘッドホンはモノラル・ステレオの両方とも使用できます。
・ MP3プレイヤーなどポータブルプレイヤーを接続して通常は音楽、スケルチが開くとDJ-X81へ自動で切り替えます。
・ A・B・C・Dの各操作ボタンには自由に機能を割り当てられます。(☞P75)

12. クローン／PC接続機能

クローン機能とは、1台のDJ-X81のデータを別のDJ-X81へコピーする機能です。
2台のDJ-X81を市販のケーブルで接続し、送り側に設定している情報を受け側へコピーをします。
また、PC接続機能によりDJ-X81をパソコン(PC)に接続して、ソフトウエアでメモリーチャンネルや、セットモードの設定などを編集できます。

12-1 接続方法

この作業を行うときは、必ず本体の電源を切った状態で行ってください。
図のように、送り側のイヤホン端子と受け側のイヤホン端子を市販のϕ3.5mmのステレオミニプラグコードで接続します。パソコンに接続するときは別売のPC接続ケーブル（ERW-4CまたはERW-7）のソケットをパソコンのシリアルポートまたはUSBポートに接続し、プラグをDJ-X81のイヤホン端子に接続します。
※ERW-4Cは生産を終了しました。

●3極ステレオミニプラグコード

＊ステレオミニプラグコードは、内部抵抗のない直結タイプを使用してください。

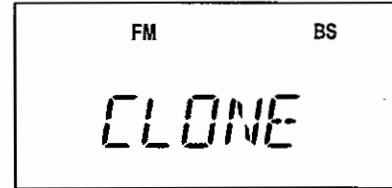
12-2 データを受け取る側の操作

別のDJ-X81からデータをコピーする場合や、パソコンで編集したデータを受け取るときに、この操作を行います。

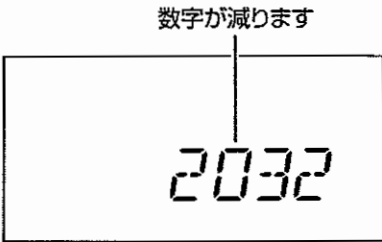
1 電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。

2 [MONI]キーを押しながら ⏻ キーを押して電源を入れます。

ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

FM BS
CLONE

3 この状態で送り側のDJ-X81あるいはPCからのデータが送られてくるのを待ちます。

4 データの転送が完了すると「FIN-ISH」と表示されるので表示を確認してから本体の電源を切ります。

FINISH

注意

- クローン機能でデータ転送中に何かキーを押すとデータ転送が中断されます。転送を再開するときはダイヤルを押してください。
- データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると送り側でディスプレイに「FAIL」と表示され、データ転送が中断されます。一度電源を切って、改めて始めからやり直してください。
- クローン機能を使用してデータ転送をすると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き替わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。

12-3 データを送る側の操作

この操作はPC接続には不要です。

1 **電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。**

2 **［MONI］キーを押しながら ⏻ キーを押して電源を入れます。**

ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

3 **「CLONE」と表示された状態でダイヤルを押すとディスプレイに右のように表示されデータを受け側へ転送します。**

4 **転送が終わるとディスプレイに「FINISH」と表示されます。**

ディスプレイに「FAIL」と表示された場合は再度、手順１からやり直してください。

5 **電源を切ります。**

電源を切らないとクローンモードは解除されません。

13. リセット機能

・メモリーモードで消去されたデータは元に戻すことはできませんので十分にご注意ください。

リセットを行うと、セットモードなどの設定内容が工場出荷時の初期値に戻ります。

13-1 リセットの方法

1 ［FUNC］キーを押しながら ⏻ キーを押して電源を入れます。

2 ディスプレイにすべての表示が点灯したら指をはなします。

初期設定のVFOモードになります。

●**オールリセットについて**

通常は使いません。メモリーデータをゼロから自分で編集したい等、特別な場合に上級ユーザーがおこなうためのリセット方法です。
操作方法は（☞P86）をお読みください。

参考

誤ってメモリーデータを消去されたときは、出荷状態のメモリーデータを以下の方法で復旧することができます。

①弊社にお送り頂けば、往復運賃のみお客様のご負担で、無償にて再書き込みを致します。弊社電子事業部の受信機に関するFAQを参照するか、本書裏表紙のサービス窓口までお電話にてお問い合わせください。

②メモリーデータ編集ソフトを弊社ホームページ（http://www.alinco.co.jp/ → 電子事業 → ダウンロード）よりダウンロードし、オプションのERW-4CまたはERW-7でパソコンと本機を接続して、ソフトに同梱のオリジナルメモリーデータを書き込んでください。

・修復したメモリーデータはメンテナンスによって工場出荷時のメモリーデータと変わっている場合がありますのでご了承ください。

・弊社では、お客様がご自分で編集・登録されたデータの修復はできませんのでご了承ください。よくデータを編集される場合、バックアップを取る意味からもPC接続機能のご利用をお勧めします。

13-2 レストア機能

本機は、受信モード（VFO/プリセット/メモリー）と周波数、スキャン状態、セットモードやファンクションキーで登録した機能設定の状態をまとめて1つ、通常リセットを掛けても消えない状態で保存できます。一番良く使う設定を記憶させておくと、通常リセット後でも簡単に回復できて便利です。

注意

・メモリーデータは記憶しません。消してしまったメモリーチャンネルはレストアできません。
・ファームウエアの仕様上、項目や設定の状態によっては、正しくレストアできないことが考えられます。実際に動作させて、あらかじめ不都合は無いか確認しておくことをお勧めします。
・レストア前とレストア後の状態を切り替えることはできません。レストアする前の状態に戻るには、改めて手動で設定しなおす必要があります。
・オールリセットを掛けると、レストア登録も消去されます。

【登録】

1 本機をレストアしたい状態に設定します。

2 [FUNC]キーを押して、F が表示されたら SSPD 5 を長押しします。rEStor SETが表示されます。

3 もう一度 SSPD 5 を長く押すと状態が登録され、ビープ音が鳴り、受信状態に戻ります。

・違う状態を登録したいときは、上記の操作を繰り返してください。

【レストア】

1 [FUNC]キーを押して、F が表示されたら SSPD 5 を長押しします。rEStor SETが表示されます。ダイヤルを回してRESTORを選びます。

2 もう一度 SSPD 5 キーを長く押すと、一瞬表示が消え、ビープ音が鳴り、レストア登録した状態に変わります。

13

14. 保守・参考

14-1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障では無いことがあります。
処置をしても異常が続くときは、P82の通常リセットをすることで症状が回復する場合があります。

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電池が接触不良をおこしている。	電池の電極を清潔なティシュや綿棒で拭く。
	電池が消耗している。	充電を行うか乾電池を新品に交換する。
	電源スイッチをはなすのが早すぎる。	電源が入るまで1秒以上押し続ける。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定する。
	トーンスケルチが働いている。	トーンスケルチを解除する。
	ミュート機能が働いている。	ミュート機能を解除する。
	アッテネータが働いている	アッテネータを解除する。
周波数表示が異常になっている。	電源電圧低下等によりCPUが誤作動している。	外部電源および電池を外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える位置に設定する。
周波数、メモリーチャンネルNo.が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
キー操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電を行うか乾電池を新品に交換する。
充電しない	充電器の充電端子が汚れている	乾いた布などで充電端子や充電池パック側の接触部分の汚れをふき取る。

・ アフターサービスやサポートが必要な場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。最寄りの販売店の検索には、弊社ホームページ(http://www.alinco.co.jp/)の「販売店のご案内」メニューをご利用ください。
・ 本製品はウエブサイトで更新用のファームウエア(受信機内部のチップに書かれた動作プログラム)を提供する場合があります。この理由からお客様がお使いのファームウエアによっては、本書の説明と異なった動きをすることがあります。
本製品についてサービスセンターにお問い合わせになる際は、次の方法でファームウエアのバージョンをあらかじめご確認いただきますようお願い申し上げます。
1： [FUNC]キーを長押しして、キーロックをかけます。
2： TONE SCAN キーを5回連続して押してから、さらに MW V/P/M キーを5回同様に押すとバージョン番号が表示されます。
3： [FUNC]キーを押すと運用モードに戻ります。

14-2 オプション一覧

・ニッケル水素バッテリーパック(EBP-179：1.2V-1900mAh×2)
・充電スタンドセット(EDC-197A)
・シガーライターケーブル(EDH-33)
・リモートコントローラー(EDS-12)
・カールコードイヤホン(EME-26)
・耳掛けイヤホン(EME-50)
・ストレートケーブルイヤホン(EME-6)
・PC接続ケーブル(ERW-7：USB接続)
・ソフトケース(ESC-59)

14-3 アフターサービスについて

14

■保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはご購入を証明できるレシート等の書類が無い場合は保証点検ができませんので充分ご注意ください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって点検修理いたします。

■保証期間が経過した場合

販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造終了製品に対する保守年限に関して

製造終了製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。
しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。
※補修用部品の保守期間は、製造終了後5年です。

■製造番号のラベルは重要です。

製造番号が読めないと、保証修理をお断りする場合があります。保証期間内に印字が薄れてきたら、弊社サービスセンターにご相談ください。
製造番号が読めなくなる位置に、ステッカーや飾り類を貼り付けないでください。
修理の際に支障が有れば、サービスセンターで破棄しますのであらかじめご了承ください。

※保証に関することとサービスセンターのご利用については弊社ホームページ（http://www.alinco.co.jp/ → 電子事業部 → FAQ ）にFAQを設けて必要な情報を掲載しておりますのでご参照ください。

参考

●全てのメモリーチャンネルの消去を含むオールリセットの方法

通常のリセットはP82に記載があります。この項目のオールリセットはメモリーを全て書き直すなど、明確な意図を持って行う上級者向けです。
オールリセット後は、すべてのメモリーが消去され、復元できません。

① メモリー保護機能の設定を「OVRWRT(上書き許可) 」にします。
② [FUNC] キー・NAME [・] キー・MW [V/P/M] キーを押しながら電源を入れます。

14

14-4 CTCSSトーン周波数一覧

トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能に使用するCTCSSトーン周波数一覧です。

67	71.9	74.4	77	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8
97.4	100	103.5	107.2	110.9
114.8	118.8	123	127.3	131.8
136.5	141.3	146.2	151.4	156.7
162.2	167.9	173.8	179.9	186.2
192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3	69.3	159.8
165.5	171.3	177.3	183.5	189.9
196.6	199.5	206.5	229.1	254.1

（単位：Hz）

14-5 DCSコード一覧

DCSコード一覧です。

023	025	026	031	032	036	043	047
051	053	054	065	071	072	073	074
114	115	116	122	125	131	132	134
143	145	152	155	156	162	165	172
174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265
266	271	274	306	311	315	325	331
332	343	346	351	356	364	365	371
411	412	413	423	431	432	445	446
452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606
612	624	627	631	632	654	662	664
703	712	723	731	732	734	743	754

15. 索引

英数字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

16. 定格

項目		定格
周波数範囲		0.100 ～ 252.895MHz /255.100 ～ 261.895MHz 266.100 ～ 270.895MHz /275.100 ～ 379.895MHz 382.100 ～ 411.895MHz /415.100 ～ 809.895MHz 834.100 ～ 859.895MHz /889.100 ～ 914.895MHz 960.100 ～1299.995MHz
電波の型式	AM	A3
	FM/WFM	F3
アンテナインピーダンス		50Ω不平衡 SMA端子
電源電圧	外部端子	DC5.4V ～ 6.0V
消費電流	受信定格出力時	約155mA*
	待受け時	約105mA*
	バッテリーセーブ時	約90mA*
	緊急地震速報機能待ち受け時	約30mA(電源OFFのとき約40時間待ち受け可能)
周波数安定度		±2.5ppm(使用温度範囲：－10℃～+60℃)
外形寸法		58W×96H×31D(突起物除く)
重量		約210g(EBP-179、アンテナ含む)
受信方式	NFM/AM	トリプルスーパーヘテロダイン
	WFM	ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数	1st	243.95MHz
	2nd	39.15MHz(NFM/AM)、10.7MHz(WFM)
	3rd	450kHz(NFM/AM)
受信感度(代表値)	FM(12dB SINAD)	・30 ～ 470MHz：-15dBμ(0.17μV)以下 ・470MHz以上：-7dBμ(0.45μV)以下
	WFM(12dB SINAD)	・76 ～ 470MHz：-6dBμ(0.5μV)以下 ・470MHz以上：-3dBμ(0.7μV)以下
	AM(10dB S/N)	・0.1 ～ 50MHz：-1dBμ(0.89μV)以下 ・50MHz以上：-6dBμ(0.5μV)以下
選択度	NFM/AM	-6dB/12kHz以上、-60dB/35kHz以下
	WFM	-6dB/130kHz以上、-60dB/300kHz以上
低周波出力		最大100mW以上(8Ω時)

* 緊急地震速報機能が動作していないときの測定値です。
　測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会で定めた測定法によります。

＊ 使用時間の目安	定格時	FM連続最大音量	ワンセグ連続定格
・アルカリ乾電池2本使用時	約13時間	約 9時間	約 9時間
・EBP-179 x 2本使用時	約19時間	約 9時間	約 9時間

・電源オフ状態でのEWS機能
　待ち受け可能時間　　EBP-179 x 2本使用時　約40時間
　　　　　　　　　　　アルカリ乾電池2本使用時　約50時間

*定格＝NFM受信1：待ち受け4、ＢＳ800mS、EWS機能オフ。
*ワンセグ連続定格＝連続受信 50mW出力時

16

■ 仕様・定格は予告なく変更する場合があります。

■ 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。

■ 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。乱丁・落丁はお取り替え致します。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多偕成ビル7階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／10:00～17:00月曜～金曜（祝祭日及び12:00～13:00は除きます）
ホームページ http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」をご覧ください。

PS0668